

地域システム学科

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
情報社会論 (Information and Society)					情報社会論Ⅰ・Ⅱ	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	前期	月 3	豊 島 慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708	
授業の概要	テーマ:情報社会とは何か情報社会について「自ら考える力」を身につけることが本講義のねらいである。本講義では、現代社会におけるメディア環境の変化や社会変動を踏まえ、社会学の立場から情報通信技術（ICT）と社会の関係性やコミュニケーションのあり様について論じる。					
具体的な到達目標						
目標1	情報社会論に関する基礎的知識や応用力を修得する。					
目標2	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。					
目標3						
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	オリエンテーション					
2	情報化とコミュニケーション1					
3	情報化とコミュニケーション2（コンピュータの歴史）					
4	情報化とコミュニケーション3（インターネットの歴史）					
5	情報化とコミュニケーション4（電話の歴史）					
6	情報社会と社会問題1					
7	情報社会と社会問題2					
8	中間レポート作成日					
9	メディア・リテラシーとは何か1					
10	メディア・リテラシーとは何か2					
11	メディア・リテラシーとは何か3					
12	地域情報化とは何か1					
13	地域情報化とは何か2					
14	総論					
15	期末レポート作成日					
アクティブ ラーニング	小レポートの提出を毎回課す。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義で使用した資料は、Moodleにアップロードするので、予習に活用すること（1h）。				
	事後学修	講義で使用した資料は、Moodleにアップロードするので、復習に活用すること（1h）。				
教科書	特になし。講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。					
参考書	適宜指示する。大石裕，1992，『地域情報化―理論と政策』世界思想社。菅谷明子，2000，『メディア・リテラシー』岩波書店。西垣・伊藤編，2015，『よくわかる社会情報学』ミネルヴァ書房。土橋ほか編，2017，『デジタルメディアの社会学』北樹出版。佐藤卓己，2020，『メディア論の名著30』筑摩書房。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合（%）	
	中間・期末レポート				50	
	平常点（小レポート等）				50	
注意事項	講義の進行上，スケジュールを変更する可能性がある。受講者は，中間・期末レポートの両方を必ず提出すること。					
備 考	オンライン講義。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
異文化間コミュニケーション論 (Cross Cultural Communication)					異文化間コミュニケーション論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	木 2	久保田 亮 E-mail yuralria@oita-u.ac.jp 内線 7730
授業の概要	異文化間コミュニケーションを営みあるものとするために必要な能力は、英語をはじめとする外国語運用能力だけではなく、語学力に磨きをかけると同時に、文化とコミュニケーションのそれぞれの特徴を適切に理解する必要があります。本講義では、この授業では、言語学・社会言語学が用いる基礎的な概念を学習し、その理解を深めるためのエクササイズを重ねることで「人間のコミュニケーション」という実践についての理解を深めます。				
具体的な到達目標					
目標 1	文化、コミュニケーション等の授業内で紹介した概念を理解する。				
目標 2	異文化間コミュニケーションの現場で生じる諸問題の原因を理解する。				
目標 3	コミュニケーションをめぐる問題に対処するための技法を理解する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	グループディスカッションの構造と実践				
3	言語の構造的特徴：語用論への招待				
4	言語の構造的特徴：言語行為				
5	言語の構造的特徴：ルーティン				
6	言語の構造的特徴：協調原理と含意				
7	言語の構造的特徴：ボライトネスという戦略				
8	言語の構造的特徴：会話の組織				
9	グループディスカッション				
10	言語と社会：社会的要因				
11	言語と社会：方言				
12	言語と社会：エスニシティ				
13	言語と社会：ジェンダー				
14	言語と社会：バイリンガリズム				
15	グループディスカッション				
アクティブ ラーニング	・ ミニッツ・コメントの作成を通して講義内容をより深く理解する機会を提供します。 ・ グループディスカッションを通してコミュニケーションを実践的に学習します。 ・ 課題への取り組みを通して講義時間外での学習を促します。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料，参考文献に対して目を通し，予習する（15h）。			
	事後学修	ミニッツコメントの評価，コメントに目を通し，授業での学習成果についての確認作業を行うとともに，配布資料，ノート，参考文献を用いて復習する（15h）			
教科書	教科書は使用しません。ただし必要に応じて資料を配布することはあります。				
参考書	・ 原沢伊都夫 2013『異文化理解入門』研究社。 ・ 加藤重宏 2019『言語学講義』ちくま新書。 ・ 石黒圭 2013『日本語は「空気」が決める社会言語学入門』光文社。その他、講義内容に関連する書籍、論文については適宜紹介します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)
	ミニッツ・コメント				40
	課題				20
	期末試験				40
注意事項	遅刻、私語等の授業進行を妨げる行為があった場合、退出を命じることがあります。授業スケジュールは変更する場合があります。ため、掲示の確認を怠らないでください。				
備考	末試験への持込みは一切不可です。初回授業で成績評価方法や授業進行について詳しく説明します。必ず出席してください。上記に掲げた授業内容は状況に応じて変更する場合があります。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関 わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に 関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
多文化共生論 (Multiculturalism and the Politics of Identity)					異文化間コミュニケーション論 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	木 2	久保田 亮 E-mail yuralria@gmail.com 内線 7730
授業の概要	異文化間コミュニケーションや多文化共生の相手として想定されている「異質な他者」という存在は、いかなる点において「わたしたち」と異なるのでしょうか。本講義では、人種、国籍、民族といったヒトを区分する概念について注目するとともに、そうした区分が社会システムの中にどのように埋め込まれているのかについて、具体的な事例に基づき学びます。				
具体的な到達目標					
目標1	講義で学んだ概念、理論、事例を正確に説明できる。				
目標2	構築主義的な視点に基づき、ヒトの区別について議論できるようになる。				
目標3	文化が他者の認知や評価に与える影響について理解する。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	アイスブレイク・グループディスカッションの技法				
3	文化の働き				
4	人種という区別（1）				
5	人種という区別（2）				
6	小括・グループディスカッション				
7	国籍に基づく区別（1）				
8	国籍に基づく区別（2）				
9	小括・グループディスカッション				
10	民族・エスニシティ（1）				
11	民族・エスニシティ（2）				
12	小括・グループディスカッション				
13	多文化社会・日本（1）				
14	多文化社会・日本（2）				
15	まとめ・グループディスカッション				
アクティブ ラーニング	・ ミニッツ・ペーパーの作成を通して講義内容をより深く理解する機会を提供します。 ・ グループディスカッションを通してコミュニケーションを実践的に学習します。 ・ 課題への取り組みを通して講義時間外での学習を促します。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料，参考文献に対して目を通し，予習する（15h）。			
	事後学修	ミニッツペーパーの評価，コメントに目を通し，授業での学習成果についての確認作業を行うとともに，配布資料，ノート，参考文献を用いて復習する（15h）			
教科書	教科書は使用しません。ただし必要に応じて資料を配布することはあります。				
参考書	授業内において必要に応じて紹介します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	ミニッツ・ペーパー				40
	課題				20
	期末試験				40
注意事項	遅刻、私語等の授業進行を妨げる行為があった場合、退出を命じることがあります。 授業スケジュールは変更する場合があります。ため、掲示の確認を怠らないでください。				
備 考	期末試験への持込みは一切不可です。初回授業で成績評価方法や授業進行について詳しく説明します。必ず出席してください。上記に掲げた授業内容は状況に応じて変更する場合があります。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
現代英・米社会論 (Contemporary American Social Science)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	後期	火 2	ブルカート クリストファー E-mail cburkart@oita-u.ac.jp 内線 7951	
授業の概要	This course focuses on a specific element of society in the United States. It is designed to provide students with a comprehensive understanding of a key aspect of a political, legal, cultural, or economic function of American society. In its current iteration the course will focus on the macroeconomy of the United States.					
具体的な到達目標						
目標 1	Identify common English vocabulary words in social science					
目標 2	Apply economic concepts used in U.S. introductory economics courses					
目標 3	Enumerate important data and indicators that track the U.S. economy					
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	Introduction: Economics from A U.S. Perspective					
2	Choice in a World of Scarcity					
3	Demand and Supply					
4	Labor and Financial Markets					
5	Test/Project 1					
6	The Macroeconomic Perspective					
7	Economic Growth					
8	Unemployment					
9	Inflation					
10	Test/Project 2					
11	Money and Banking					
12	Monetary Policy and Bank Regulation					
13	Government Budgets and Fiscal Policy					
14	International Trade					
15	Test/Project 3					
アクティブ ラーニング	Classroom activities include projects, brief student-centered talks, and knowledge checks. These will help students build confidence in their understanding of the course material.				その他の 授業の工夫	The university’s Learning Management System, Moodle, will be used for distribution and submission of course materials and assignments.
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	Read assigned materials before class.				
	事後学修	Review class content and complete assignments.				
教科書	Principles of Macroeconomics 2e., S. Greenlaw and D. Shapiro. OpenStax Publishing.					
参考書	Additional materials will be provided in class and via the Moodle site.					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)	
	Attendance/Active participation				20	
	Vocabulary Quizzes				30	
	Tests/Projects				50	
注意事項	All students are expected to have a laptop computer and are expected to bring their laptops to class meetings. The course is delivered in English.					
備 考	This course will be offered as a blended course, with some face-to-face meetings and other meetings held fully online as public health conditions require.					
リンク						
	URL					
担当教員の 実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる 実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
英・米文化論 (American Culture)					イギリス言語文化論 アメリカ言語文化論	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	後期	火 3	ブルカート クリストファー E-mail cburkart@oita-u.ac.jp 内線 7951	
授業の概要	This course is designed to help students increase their understanding of cultural patterns in the United States and examine how they are different from their own experiences. The course will use interactive activities, readings, discussions, and audio-visual materials. Students will also practice reading and writing standard American English with increasing fluency.					
具体的な到達目標						
目標 1	Improve reading and writing of standard American English.					
目標 2	Gain a deeper awareness of U.S. culture and society.					
目標 3	Be able to look at Japanese culture from a new perspective.					
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	Introduction: Understanding the Culture of the United States					
2	Traditional American Values and Beliefs					
3	The American Religious Heritage					
4	The Frontier Heritage					
5	Student Project 1					
6	The Heritage of Abundance					
7	The World of American Business					
8	Government and Politics in the United States					
9	Ethnic and Racial Diversity in the United States					
10	Education In the United States					
11	Student Project 2					
12	How Americans Spend Their Leisure Time					
13	The American Family					
14	American Values at the Crossroads					
15	Summaries and Final Projects					
アクティブ ラーニング	Classroom activities include group discussions, projects, and knowledge checks. These will help students build confidence in their understanding of the material and in their ability to communicate.				その他の 授業の工夫	The university’s Learning Management System, Moodle, will be used for distribution and submission of course materials and assignments.
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	Read assigned materials before class.				
	事後学修	Review class content and complete assignments.				
教科書	Datesman, Maryanne Kearny (2005) 3rd Edition American Ways: An Introduction to American Culture. Pearson					
参考書	Additional materials will be provided in class and via the Moodle site.					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)	
	Active Class Participation				20	
	Projects				40	
	Weekly Assignments				40	
注意事項	All students are expected to have a laptop computer with word processing software. Students will be expected to bring their laptops to class meetings. The course is delivered in English.					
備 考	This course will be offered as a blended course, with some face-to-face meetings and other meetings held fully online as public health conditions require.					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
現代英語論 (Contemporary English)					現代英語論	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	前期	水 2	矢 野 英 子 E-mail yano-hideko@oita-u.ac.jp 内線 7725	
授業の概要	ことばとしての英語の様相や、英語圏の文化を概観しつつ、現代の英語の内包する様々な問題に触れ、現代英語への理解と知識を深める。私たち日本人にとっての英語を改めて見直し、異文化コミュニケーションに生かすことを目指す。					
具体的な到達目標						
目標 1	現代英語の特徴を英語の歴史の流れから理解できる。					
目標 2	英語周辺の知識を増やすことで興味を深める。					
目標 3	学んだことをまとめ、グループで発表することができる。					
目標 4	毎時間の学びを自分で振り返り評価できる。					
目標 5						
授業の内容						
1	英語の世界 World Englishes (1)					
2	世界の英語 World Englishes (2)					
3	英語の歴史 (1) 英語の類義語					
4	英語の歴史 (2) アメリカ英語とイギリス英語					
5	現代の英語 Political Correctness					
6	ことばとしての英語 (1) 文学とことば					
7	ことばとしての英語 (2) ことばと表現					
8	ことばとしての英語 (3) 英語の音					
9	英語圏の生活・行事					
10	英語圏の生活・文化					
11	日本の英語史 学習者としての英語 和製英語					
12	日本の英語教育 Critical Thinking					
13	英語の使い方 Writing					
14	英語の使い方 Speaking, Speech					
15	まとめと発表					
アクティブ ラーニング	学んだ内容の確認、発表をするためにペアあるいはグループで話をする。 毎回の学びを記録し自己評価を行う。 学んだことをまとめ、発表をすることで学びを主体的に捉え、理解を深める。				その他の 授業の工夫	映像・視覚資料を用いて、理解を深める。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	関連資料に目を通す。(10h)				
	事後学修	毎回の授業で学んだことを整理する。 関連資料などをみつける。(15h)				
教科書	『社会人のための英語の世界ハンドブック』酒井志延 ほか編、大修館書店					
参考書	『図説 英語史入門』中尾俊夫・寺島廸子著、大修館書店 『英語の歴史』寺澤盾著、中公新書					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)	* クラスの状況によって決定する。
	試験またはレポート *				60	
	平常点				40	
注意事項	10回以上の出席を必要とする。遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とカウントする。 授業中の携帯電話使用は禁止。					
備考	授業形態は、状況に応じて決定する。 グループ内で話し合ったり、教えあう活動に積極的に参加できること。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教 員 の 実 務 経 験	海外の大学、国内の大学・公立学校での教育経験、および福祉機関での勤務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容	それぞれの経験を学生の英語指導および授業内での学生指導に生かすことができる。					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
ヨーロッパ文化論 (European culture)					近代ドイツ文化論 フランス文化論	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	前期	木 3	安 田 俊 介 E-mail syasuda@oita-u.ac.jp 内線 7728	
授業の概要	この授業では、フランスの起源から 18 世紀末に起こったフランス革命にいたるまでの歴史と文化の流れのアウトラインをたどりながら、合わせてフランスを取り巻く西ヨーロッパ世界の成り立ちとその特徴について、そのつどの時代背景を交えながら説明していきます。					
具体的な到達目標						
目標 1	フランスの歴史と文化、そして西ヨーロッパ世界の本質を理解する					
目標 2	キーワードと年号を暗記する					
目標 3	西ヨーロッパ世界を空間と時間の両面から把握する					
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	はじめに一授業の全体の流れの説明					
2	フランスの基本情報					
3	ケルト文化					
4	キリスト教の歴史と文化					
5	フランク王国—ヨーロッパ連合の母胎としての					
6	中世ヨーロッパの世界 1					
7	中世ヨーロッパの世界 2					
8	ルネサンスと宗教改革					
9	絶対王政期のヨーロッパ 1					
10	絶対王政期のヨーロッパ 2					
11	啓蒙期のヨーロッパ 1					
12	啓蒙期のヨーロッパ 2					
13	フランス革命と国民国家の創出 1					
14	フランス革命と国民国家の創出 2					
15	まとめ					
アクティブラーニング	授業のさいに関連する文献等の情報を示します。積極的にそれらを活用してください。				その他の授業の工夫	必要に応じて、年表・地図等を配布し、西ヨーロッパ世界の成り立ちとその歴史を立体的に把握できるように配慮します。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	シラバスを参考にして、毎回の授業の前に高校時に使用した世界史Aあるいは世界史Bの教科書の該当箇所を予め読んでおいてください。				
	事後学習	授業のノートを必ず読み直して、どこがポイントなのか、大切なキーワードや年号は何なのかを考え、できるだけ暗記する習慣を身につけてください。				
教科書	プリントを配布します。					
参考書	授業の理解を深めるための文献はそのつどとりあげますが、あらかじめ明石和康『ヨーロッパがわかる—起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書、2013年を読んでおくことを勧めます。					
評価方法・評価割合及び評価の	評価方法				割合 (%)	
	授業への取り組み				40	
	学期末試験（筆記）				60	
注意事項	遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用等はきびしくチェックします。					
備考	ヨーロッパの歴史や文化に関心を持っていて、この機会に色々な本を読みたいと考えている学生を歓迎します。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教員の実務経験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実務経験をいかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)						旧授業科目名	
アジア文化論 (Asian Culture)						中国文化論	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員		
選択	2	3, 4	後期	月 2	包 聯 群 E-mail blianqun@oita-u.ac.jp 内線 7724		
授業の概要	漢字圏とは何を指しているのか、本講義では、中国をはじめとする漢字圏、およびその周辺における多様な言語と文化を学ぶことによって、中国の現在と過去を知ることができます。中国と言えば、漢民族のみではなく、多様な言語と文化を持つ国でもあります。日本では、世界の地図をかつて改めて描いたとされるチンギス・カーンの子孫モンゴル人、現在の中国を300年近く支配した満洲人、そして、中国の西域で厳しい自然環境に対応しながら賢く生きているウイグル人、また中国ないしモンゴル国を含む広大な土地に仏教を広げたチベット人、それらの民族の言語と文化なども取り上げます。こうして、アジアに生きる多民族を対象とし、本授業で漢字圏及びその周辺を視野に収め、受講生とともにアジアの「旅」をしながら、視野を広げていきます。						
具体的な到達目標							
目標 1	漢字圏という概念を理解し、身近にある漢字の歴史への理解を深める。						
目標 2	多民族国家である中国には、多言語、多文化があることを理解すること。						
目標 3	アジア（朝鮮、モンゴルなど）の文化をある程度まで理解しておくこと。						
目標 4							
目標 5							
授業の内容							
1	ガイダンス						
2	「漢字圏」という概念および漢字を使っていた国々と、その歴史						
3	アジアの文化 I						
4	アジアの文化 II						
5	アジアの文化 III						
6	中国の文化 I						
7	中国の文化 II						
8	中国・満洲人の言語と文化 I						
9	中国・満洲人の言語と文化 II						
10	アジアにおけるモンゴル人の言語と文化 I						
11	アジアにおけるモンゴル人の言語と文化 II						
12	中国・ウイグル人の言語と文化						
13	中国・チベット人の言語と文化						
14	中国におけるその他の少数民族の文化						
15	まとめ						
アクティブ ラーニング	毎回、予習と復習をし、課題を完成すること。毎回、まとめと感想文を書いてもらい、発言する機会を与える。課題について、グループごとにディスカッションを行うこと。					その他の 授業の工夫	関係する文献を調べ、予習しておくこと。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	次回学ぶ課題を事前に調べ、予習しておくこと。毎回、意欲をもって取り組んで質問があれば聞いておくこと。課題を完成すること。					
	事後学修	授業で学んだ課題、内容を理解しておくこと。授業で学んだ課題について、積極的に取り組むこと。授業で学んだ課題と関係する問題を調べ、検討し分析しておくこと。					
教科書	毎回、資料を配付する。						
参考書	1. 『アジア世界のことばと文化』。砂岡和子、池田雅之編著。成文堂、2006 年。 2. 適宜紹介する。						
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法					割合(%)	
	まとめ・感想文の提出					30	
	課題完成度					20	
	期末レポート					50	
注意事項	1. 三分の一以上欠席すると単位が取得できないので注意すること。 2. 関連する資料を調べ、さらなる理解を深めること。						
備 考	写真及びビデオなどの映像資料をつねに使う。またインターネットを活用することもある。						
リンク							
	URL						
担当教員の 実務経験の有無	○						
教 員 の 実 務 経 験	経験を活かし、授業の内容をさらに多様化していく。						
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無							
教員以外の指導に関わる 実務経験者							
実 務 経 験 を いかした教育内容							

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
英語コミュニケーションセミナーⅠ (English Communication Seminar Ⅰ)					英語コミュニケーションセミナーⅠ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3	前期	木 3	ヌートバー ジュリー (非常勤講師) E-mail julie-n@oita-pjc.ac.jp 内線
授業の概要	The aim of this course is to build upon basic skills to give students the tools and confidence to communicate in English. A variety of topics will be covered to introduce vocabulary, expressions, and grammatical structures useful in everyday situations and conversations, and students will practice these in pair work, role play, and interview activities with the teacher and their classmates.				
具体的な到達目標					
目標 1	Increase knowledge of vocabulary, expressions, and grammatical structures useful in English conversation				
目標 2	Improve English communication skills and fluency in everyday English conversation				
目標 3	Gain confidence in communicating in English				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	Getting to Know Each Other (Introduction / Activity)				
2	Asking & Answering Questions (Academic Interests / College Life)				
3	Thanking & Apologizing (Showing Someone Around)				
4	Talking about the Past & Daily Life (Past Time / Free Time)				
5	Making Small Talk (Giving compliments / Talking about Everyday Topics)				
6	Keeping or Killing a Conversation / Reactions (Conversation Skills)				
7	Asking & Accepting or Refusing (Invitations / Appointments)				
8	Asking for Permission & Making Suggestions				
9	Asking a Favor (Getting Help or Assistance)				
10	Informing, Congratulating, & Encouraging				
11	Describing Looks and Personality (Ourselves & the People Around Us)				
12	Discussing Beliefs & Superstitions (Blood Types, Zodiac Signs, etc.)				
13	Talking about Intentions & Future Plans				
14	Discussing Hopes & Dreams				
15	Review & Consolidation				
アクティブ ラーニング	English Communication Seminar I is a student-centered class, in which students will actively participate in speaking, listening, reading, and writing activities, including pair work, role play, and interviews, to encourage confidence and competence.				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	Homework will be assigned and must be submitted on time			
	事後学修				
教科書	Handouts will be distributed each week				
参考書	None				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)
	Class participation				40
	Classwork				10
	Homework				10
	Final test				30
	Attitude				10
注意事項	Students must attend and participate actively in class				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
英語コミュニケーションセミナーⅡ (English Communication Seminar Ⅱ)					英語コミュニケーションセミナーⅡ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3	後期	木 3	ヌートバー ジュリー (非常勤講師) E-mail julie-n@oita-pjc.ac.jp 内線
授業の概要	The aim of this course is to build upon basic skills to give students the tools and confidence to communicate in English. Vocabulary and expressions will be practiced through pairwork, role play, and interview activities				
具体的な到達目標					
目標 1	Increase knowledge of vocabulary, expressions, and grammatical structures useful in English conversation				
目標 2	Improve English communication skills and fluency in everyday English conversation				
目標 3	Gain confidence in communicating in English				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	Summer Experiences (Introduction / Activity)				
2	Meeting a friend by accident (Meeting people & Chatting with Friends ①)				
3	Allow me to introduce myself (Meeting people & Chatting with Friends ②)				
4	Let’ s do lunch! (Meeting People & Chatting with Friends ③)				
5	College Life & Friends (Storytelling & Discussion)				
6	I need a vacation! (Traveling & Getting Around ①)				
7	How would you like your money? (Traveling & Getting Around ②)				
8	How many nights will you be with us? (Traveling & Getting Around ③)				
9	I think I’ m lost (Traveling & Getting Around ④)				
10	Holidays & Vacation (Storytelling & Discussion)				
11	Making an appointment (Using the Telephone and Communicating with People ①)				
12	May I take a message? (Using the Telephone & Communicating with People ②)				
13	Calling and leaving a message (Using the Telephone & Communicating with People ③)				
14	Let’ s have a party! (Using the Telephone & Communicating with People ④)				
15	Our lives, our careers, and the world (Storytelling & Discussion)				
アクティブ ラーニング	English Communication Seminar II is a student-centered class, in which students will actively participate in speaking, listening, reading, and writing activities, including pairwork, role play, and interviews, to encourage confidence and competence.				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	Homework will be assigned and must be submitted on time			
	事後学修	Revision of classwork and submission of homework			
教科書	Handouts will be distributed each week				
参考書	None				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)
	Class participation				40
	Classwork				10
	Homework				10
	Test				30
	Attitude				10
注意事項	Students must attend and participate actively in class				
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関 わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に 関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
異文化理解ワークショップ (Cross-cultural understanding workshop)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	前期	月 2	包 聯 群 E-mail blianqun@oita-u.ac.jp 内線 7728	
授業の概要	「異文化理解ワークショップ」の授業は、異文化への理解を目標とし、参考文献や論文などに基づいて、発表とディスカッションを行うことになります。また、中国の大学生とも（オンライン）交流を2コマ程度行い、大学生同士の生活や回りの学習状況、社会環境などについて語り合うことにし、それを通じて、お互いの文化への理解を深めていく。					
具体的な到達目標						
目標1	異文化への理解を目標とする。					
目標2	中国の大学生との交流を通じて、中国の文化を理解できる。					
目標3	コミュニケーション能力を向上できる。					
目標4	視野を広げることができる。					
目標5						
授業の内容						
1	ガイダンス					
2	異文化とは何か					
3	中国の多言語多文化社会					
4	日本の多言語多文化社会とは何か					
5	発表とディスカッション1					
6	発表とディスカッション2					
7	発表とディスカッション3					
8	中国の大学生とオンライン交流1					
9	発表とディスカッション4					
10	発表とディスカッション5					
11	発表とディスカッション6					
12	中国の大学生とオンライン交流2					
13	発表とディスカッション7					
14	発表とディスカッション8					
15	まとめ					
アクティブラーニング	発表担当者は、事前の準備をきちんとしてください。				その他の授業の工夫	異文化に関する書籍、論文などを多く調べて、読んでおくこと。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	授業内容に関わる参考文献などについて必ず事前に調べて、学習しておくこと。				
	事後学修	当日の授業内容についてまとめをし、疑問点があれば次の授業で質問をし、理解できるようにすること。				
教科書	教科書はないが、参考文献は随時指示する。					
参考書	『多言語社会日本』（その現状と課題）。多言語化現象研究会編、三元社。2013年。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	授業への取り組み				40	
	学期末レポート				60	
注意事項	ワークショップ形式の授業のため、受講者数を20名程度に限定します。					
備考						
リンク						
	URL					
担当教員の 実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる 実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域経営論Ⅰ (Regional ManagementⅠ)					地域経営論Ⅰ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	水 2	外 戸 保 大 介 E-mail sotohebo@oita-u.ac.jp 内線 7685
授業の概要	日本各地では、人口減少がますます進む一方で、地域の持続可能性を意識した地域経営の在り方に対する関心が高まっている。この科目では、経済発展と人口移動のメカニズムについて理解したうえで、地域に多様に存在する地域資源をいかに活用し、雇用や産業の創生につなげているのか、理論や実態を踏まえて検討する。そのなかで、各地で地域資源の活用が進む観光の動向にも目を向けてみたい。この科目では、地域を構成する地方自治体、企業、住民、NPOなどの多様な主体とそれらの関係性を把握するとともに、地域の経済や産業だけではなく地域の社会や文化といった複合的な要素との関係を捉えながら、地域経営の在り方について理解を深めてもらいたい。				
具体的な到達目標					
目標 1	地域経営に関わる基礎的な概念や理論について内容を理解し、文章で説明できる。				
目標 2	地域活性化のための実態や政策を列挙するとともに、その背景についても説明できる。				
目標 3	統計を用いた図表を読み取り、地域の傾向を分析することができる。				
目標 4	持続可能な地域経営にむけて、具体的な地域活性化策を提示することができる。				
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	経済発展と人口移動（１）：人口学的方程式、近代産業の発展と人口移動				
3	経済発展と人口移動（２）：大都市の過密と地方の過疎、サービス経済化、広域中心都市				
4	空間認識と地域のイメージ				
5	地域資源と地域の活性化：地域資源の活用と産業				
6	観光と地域経営（１）：観光業の特徴と傾向変化、世界遺産、観光による地域への影響				
7	観光と地域経営（２）：伝統的な景観の保存と観光				
8	観光と地域経営（３）：産業観光、近代的産業遺産				
9	地域性が形成される諸要因				
10	社会・文化の多様性と地域（１）：言語の多様性と産業				
11	社会・文化の多様性と地域（２）：食文化の多様性、酒造業のイノベーション				
12	社会・文化の多様性と地域（３）：音楽を活用した地域活性化				
13	社会・文化の多様性と地域（４）：アートを活用した地域活性化、関係人口と交流人口				
14	社会・文化の多様性と地域（５）：地域密着型経営				
15	社会・文化の多様性と地域（６）：コンテンツ産業の集積				
アクティブ ラーニング	各自のスマートフォンやタブレット端末で、RESASやGoogle Earth、講義に関連するWebサイト等を利用する実習を通じて、知識の定着・確認を促す。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	講義の前に『キーワードで読む経済地理学』や『人文地理学事典』などを用いて、授業のキーワードをあらかじめ理解しておく（10h）。			
	事後学修	講義の後に、ノートを整理するとともに、講義に関連する文献やWebサイトに関する情報を読み、課題レポートを作成する（10h）。講義に関する質問は、授業後のほかにオフィスアワーも活用してください。			
教科書	教科書は指定しない				
参考書	参考書は指定しない				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テスト				70
	期末レポート				30
注意事項					
備考	・地域システム学科の学科基盤科目の１つです。まずは、この科目で地域経営の基礎知識を身に付けましょう。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域経営論Ⅱ (Regional Management Ⅱ)					地域経営論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	水 2	外 戸 保 大 介 E-mail sotohebo@oita-u.ac.jp 内線 7685
授業の概要	日本を含む先進国の各地の多くでは、産業が成熟化し、新たなイノベーションの創出や地域の再生が求められている。この科目では、主に地域の産業や雇用に焦点を当て、その理論や実態・政策について検討を進める。また、この科目を通じて、地域の経済や産業だけではなく地域の福祉や環境といった複合的な要素との関係を捉えながら、地域を持続的に機能させる地域イノベーションや制度・政策の在り方について理解を深めてもらいたい。				
具体的な到達目標					
目標1	地域経営に関わる基礎的な概念や理論について内容を理解し、文章で説明できる。				
目標2	日本・欧米各地の実態を把握し、その課題について説明することができる。				
目標3	統計を用いた図表を読み取り、地域の傾向を分析することができる。				
目標4	地域再生のための具体的な制度・政策を提示することができる。				
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	地域の産業とイノベーション（1）：産業集積の諸理論、イノベーションの地理				
3	地域の産業とイノベーション（2）：中小企業の集積、地場産業産地の革新、地域ブランド				
4	地域の産業とイノベーション（3）：企業城下町				
5	地域の産業とイノベーション（4）：空間分業				
6	交通・流通と地域経営（1）：都市の発展と郊外の形成				
7	交通・流通と地域経営（2）：大型店の立地規制、中心商店街問題				
8	交通・流通と地域経営（3）：ショッピングモールの立地				
9	交通・流通と地域経営（4）：公共交通と地域				
10	地域の盛衰と再生の模索（1）：コンパクトシティと縮小都市論、ロックイン効果				
11	地域の盛衰と再生の模索（2）：条件不利地域、内発的発展				
12	制度・政策と地域経営（1）：国と地方自治体の関係性変化、ローカルガバナンス				
13	制度・政策と地域経営（2）：福祉の多様性、時間地理学、都市と貧困				
14	制度・政策と地域経営（3）：エネルギーと環境、NIMBY				
15	まとめ				
アクティブラーニング	各自のスマートフォンやタブレット端末で、RESASやGoogle Earth、講義に関連するWebサイト等を利用する実習を通じて、知識の定着・確認を促す。				その他の授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	講義の前に『キーワードで読む経済地理学』や『人文地理学事典』などを用いて、授業のキーワードをあらかじめ理解しておく（10h）。			
	事後学修	講義の後に、ノートを整理するとともに、講義に関連する文献やWebサイトに関する情報を読み、課題レポートを作成する（10h）。講義に関する質問は、授業後のほかにオフィスアワーも活用してください。			
教科書	教科書は指定しない				
参考書	参考書は指定しない				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テスト				70
	期末レポート				30
注意事項					
備 考	・原則的に、地域経営論Ⅰを履修してから受講してください。 ・他の経済地理学、社会学等の関連科目をあわせて履修すると、より深い理解が得られます。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
都市経営論Ⅰ (Urban ManagementⅠ)					都市経営論Ⅰ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	前期	金 3	高 島 拓 哉 E-mail tataka@oita-u.ac.jp 内線 7678
授業の概要	近年の自治体行政改革(地方行革)はNPMからNPGへと進化しつつあるが、それらについての正確な理解が立ち遅れているもとの、行革内容がたんなるコスト削減を主眼とするものであるかのような誤解が蔓延している。こうした誤解をただすべく、NPMなどの新展開を解説して行革の方法論を考えるとともに、コミュニティ行政、ごみ（清掃）行政、社会福祉行政などを例に、主として自治体公共サービス分野でN P Mなどを活用する条件および民営化手法の論点を考える。本講義は暗記科目ではないことに注意。				
具体的な到達目標					
目標1	NPM、NPGがどのような背景から生まれ、どのように活用されているか説明できる。				
目標2	NPMの重要な柱ともいえる行政評価指標、特に投入、産出、成果、効率、効果などの諸概念の理解ができる。				
目標3	NPGに関わって民意の分裂が顕著な領域で民意集約の課題を説明できる。				
目標4	自分の街のさまざまな政策について、行政評価がどのように用いられているかを説明できる。				
目標5	社会福祉改革の基本的な内容と課題を説明できる。				
授業の内容					
1	開講にあたって：講義の目的と概要、成績評価の考え方や質問の扱いなどを説明する。				
2	都市経営の流れとNPM：戦前からの都市経営論の学説史をふまえ現状でのNPMを説明する。				
3	行政合理化と市場化・民営化（1）：公・民の原理的な立ち位置や縦割りの克服などの課題を説明する。				
4	行政合理化と市場化・民営化（2）：NPMの背景を解説し、全体的な論理構造を説明する。				
5	ごみ処理政策の問題点と評価のあり方―有料化を中心に：有料化の効果計測等を例に評価の落とし穴を解説する。				
6	ごみ処理政策の他の側面：有料化論を検討するにもロジックモデルによりごみ処理全体を見る必要があることを説明する。				
7	評価とそのモノサシ：評価の目的、主体、プログラム評価における指標を説明する。				
8	サービスの質：サービスでは効率概念を単純に適用できないという学説を紹介・検討する。				
9	民営化をめぐる諸問題（1）企業による保育参入：規制緩和と抱き合わせの民営化と質の関係を論じる。				
10	民営化をめぐる諸問題（2）指定管理者制度：公の施設の管理運営委託をめぐる論点と課題を説明する。				
11	民営化をめぐる諸問題（3）PFI：コンセッションを含めインフラ民営化の手法と現実について説明する。				
12	「新しい公共」、住民参加、町内会：NPM等を経由して公民関係がどう変容しているか検討する。				
13	民意の集約とマニフェスト：民意や政治的中立は必ずしも観察可能ではないが、政治的集約の課題を説明する。				
14	社会福祉基礎構造改革：措置から契約への制度移行をめぐる主要な論点を整理・検討する。				
15	まとめ：各回の議論を都市経営という視点であらためて捉え返す。				
アクティブ ラーニング	多くの参考文献を紹介（特に附属図書館所蔵分は請求記号を付記）し、評価指標として具体的にどのようなものがあがっているか確認するように促す。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義全体について、「都市経営」という用語が一般にどのように用いられているかの確認のため、附属図書館にある「都市経営（論）」の文字を含む書籍の目次を調べる（0.5h）。また、講義の前提となる「地方公共団体」の語義について辞書等で調べる（0.5h）。			
	事後学修	講義資料はかなりの字数で作成しているが、質疑を含めて原則としてすべて読了する（1h）。			
教科書	なし				
参考書	碓井敏正・大西広編(2014)『成長国家から成熟社会へ』花伝社。松尾匡(2014)『ケインズの逆襲、ハイエクの慧眼』PHP研究所。新藤宗幸(2020)『新自由主義にゆがむ公共政策』朝日新聞出版。尾林芳匡(2020)『自治体民営化のゆくえ』自治体研究社。尾林芳匡・入谷貴夫編(2009)『PFI神話の崩壊』自治体研究社。平岡和久(2020)『人口減少と危機のなかの地方行財政』自治体研究社。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	学期末レポート			100	
注意事項	講義計画は多少変更する場合がある。毎回、アンケートを取り質問・意見等について次の回の講義資料で回答する。				
備 考	都市経営論を都市計画・都市開発などの「まちづくり」に関する議論だと誤解している人が多いが、ごみ収集や保育、学校給食の問題などが戦後都市経営論の主要な問題領域である。この点の誤解は講義の中では正してもらうこととする。都市計画・都市開発については本講義ではなく「都市経営論Ⅱ」で扱う。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関 わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に 関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
都市経営論Ⅱ (Urban Management II)					都市経営論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	金 3	高 島 拓 哉 E-mail tataka@oita-u.ac.jp 内線 7678
授業の概要	縮小都市やコンパクトシティの流れは欧米ではすでに進んできたものであり、その背景には環境重視、高齢者・障害者の在宅生活の広がりに加えて、近年「インフラ危機」として浮上したように、郊外拡散型都市化が財政負担を重くし、非効率や浪費など「大きな政府」につながってきたことへの反省と危惧がある。都市計画制度の概説を行い、コンパクトシティ（縮小都市）や空き家対策の方向性、インフラ対策を含め、人口減少時代の都市計画の課題を考える。				
具体的な到達目標					
目標1	人口減少、空き家問題、インフラ危機の相互関係を説明できる。				
目標2	コンパクトシティの多様な意味を整理して説明できる。				
目標3	わが国における都市計画の規制ツールの概略について説明できる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	開講にあたって				
2	ヒートアイランド現象：コンパクトシティの名目で過密を増進させる政策論に釘を刺す。				
3	都市経営の継承と断絶				
4	NPM の手法：評価、契約、市場化、民営化				
5	都市計画の原理				
6	都市計画の対象				
7	都市計画制度の概要（１）土地利用規制				
8	都市計画制度の概要（２）区画整理・再開発				
9	コンパクトシティは多義的な用語				
10	空き家問題				
11	インフラ点検の困難				
12	インフラ危機とコンパクトシティ				
13	立地適正化計画				
14	アメリカ都市計画のスマートグロース手法				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	地元大分市地域の都市計画情報資料を多く無償配布しているホルトホール大分のまちづくり情報プラザを紹介するとともに大分都市計画総括図を講義時に掲示し、これが大分市都市計画課で有償配布していることを述べ、自主的に区域ごとの指定状況を調べることを促す。				その他の 授業の工夫 講義資料においてライトノベルの文体を活用した会話形式の解説記事を導入して、難解な論点をかみくだいて示す。毎回のアンケートでの質問や意見に対して次の講義資料で回答を行う。
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	講義で論じる規制内容を身近に感じてもらうべく、住宅広告を集めてもらう（0.5h）。			
	事後学修	講義資料を読了してもらう（1h）。			
教科書	なし				
参考書	福川裕一ほか(2005)『持続可能な都市』岩波書店、吉川富夫(2004)『米国における地域経営の新展開』公人社、吉川富夫(2007)『業績測定による地域経営戦略』溪水社、谷口守(2014)『入門都市計画』森北出版、中山徹(2017)『人口減少と大規模開発』自治体研究社ほか講義で紹介。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	最終レポート				100
注意事項	講義計画は多少変更する場合がある。毎回、アンケートを取り、質問や意見などについて次の講義資料で回答する。本講義は暗記科目ではない。				
備 考	本講義のキーワードの１つ、コンパクトシティは論者によってかなり異なった意味で使われている。この事実をふまえずに本講義を理解することはできないので注意されたい。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域分析論Ⅰ (An Intoroduction to Area / Regional Studies Ⅰ)					比較地域分析Ⅰ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	1, 2, 3, 4	前期	金 2	城 戸 照 子 E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946
授業の概要	19世紀的な「国民国家」(nation state) の境界を超えた、広義の「地域」が成立する必然性とその構築に必要な条件を考察する。具体的な事例としてASEAN諸国の19世紀以降の経済史をとりあげる。				
具体的な到達目標					
目標1	ASEAN諸国と日本の歴史的関係の基礎知識を学び直す。				
目標2	ASEAN10カ国の社会経済事情の基礎知識を確かなものにする。				
目標3	ASEAN10カ国＋日米中を考える際の、『重層的「地域」』という考え方を理解する。				
目標4	ASEANと日本の関係を知る。				
目標5	ASEAN諸国出身者の「外国人労働者」の姿を確認する。				
授業の内容					
1	導入：広義の「地域」とASEAN諸国を取り上げる理由				
2	ASEAN加盟各国の地理的特徴				
3	ASEAN加盟各国の相互の歴史関係				
4	ASEANはいつ、どのように成立したか				
5	ASEAN創設の理由と意義				
6	ASEANの複数の経済中心地 ① イスラーム諸国：インドネシア				
7	ASEANの複数の経済中心地 ② 多民族国家：マレーシア				
8	ASEANと旧宗主国の関係 ③ シンガポールと香港				
9	「海のアジア」と太平洋／アジア太平洋協力				
10	東南アジア・ASEANと「海のアジア」・「一帯一路」				
11	東南アジアと「一帯一路」の関係				
12	ASEAN＋3（日中韓）の「東アジア」				
13	二国間外交ではなく『重層的「地域」』が重要な意味				
14	ASEAN諸国と日本の経済的関係				
15	結論：広域の「地域」を、考える物差しにする意義				
アクティブラーニング	新聞記事などの資料を提示し、ニュースの前後の事情も含め、理解を深める。事前に指定して重要なキーワードを調べてくる課題を出し、予習重視での授業を行う。				その他の授業の工夫 講義中にニュース映像を紹介して現状を知る資料とする。報道からキーワードを聴き取るシートを配布する。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	教科書の指定ページを読み、重要だと思われるキーワードをノートに書き出す。			
	事後学習	講義中の説明年料から、事前に選んだキーワードの説明を自分でまとめる。			
教科書	岩崎育夫（2017）『入門 東南アジア近現代史』講談社				
参考書	授業中に文献目録を配付する。『現代インドネシアを知るための64章』などの明石書店のエリアスタディーズのシリーズを中心とする。				
評価成績割及評価の	評価方法				割合(%)
	中間試験（6月末に実施予定）知識の定着を問う問題を多く出題。				50
	学期末試験 論述形式で考察の深化を問う問題を出題。				50
注意事項	対面かオンライン授業（ZOOM）かは、4月になって決める。どちらにせよmoodle（ムードル）を利用するので授業前後に必ず確認すること。				
備考	高校で世界史A, 世界史Bを履修していなくても受講できるが、必要な基礎的知識の整理は各自で行うこと。その際必要な文献については、講義中に紹介する。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域分析論Ⅱ (An Intoroduction to Area / Regional Studies Ⅱ)					比較地域分析Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	1, 2, 3, 4	後期	金 2	城 戸 照 子 E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946
授業の概要	この講義では、「国民国家」(nation state) に内包される「狭義」の「地域」を取り上げる。対象とするのは主として日本なので、特徴ある「地域」の地方自治体の取組や政策を参照する。「地域」の国際化および自治体の「移民政策」を「外国人とともに学び働き生活する方針と具体的取り組み」と広くとらえ、少子高齢化の日本社会の今後の課題を考えることをねらいとする。				
具体的な到達目標					
目標1	「多文化共生」の理念を知る。				
目標2	外国人と一緒に働く時の「外国人労働者」問題と法改正の知識を知る。				
目標3	「定住外国人」に地方自治体が働きかける必要性と具体例を考える。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	「多文化共生」のスローガンを知る。				
2	「多文化主義」と「多文化共生」の違いを考える。				
3	「多文化主義」とポリティカル・コレクトネスへの反感を知る。				
4	それでも「多文化共生」が日本で必要な理由を考える。				
5	少子高齢化によって、本当に「地方消滅」の時代が来るのか、問う。				
6	「地域」の経済活動はどうか、予想する。				
7	「地域」での雇用はどうか、予想する。				
8	「外国人労働力」と「外国人労働者」の違いを考える。～ヨーロッパの事例から～				
9	「外国人労働者」を導入する制度の法改正を知る。				
10	日本の農業と日本の製造業と、外国人労働者の関係を知る。				
11	日系南米人と「地域」社会の関係の実例を探す。				
12	人の移動について、日欧比較を試みる。				
13	東アジアの一員としての九州を考える。				
14	東南アジアと九州の関係を知る。				
15	これからの「地域」が「国家」の枠を超えてグローバルに考える必要性を知る。				
アクティブラーニング	新聞記事などをコピー配布する。また、官公庁の公式ウェブサイト検索を宿題として、正確な統計データにアクセスするリテラシーを磨く。				その他の授業の工夫 講義中にニュース映像を紹介して現状を知る資料とする。報道からキーワードを聴き取るシートを配布する。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書の指定ページを読み、重要だと思われるキーワードをノートに書き出す。(15h)			
	事後学修	講義中の説明年料から、事前に選んだキーワードの説明を自分でまとめる。(15h)			
教科書	永吉希久子 (2020)『移民政策と日本社会』中央公論新社				
参考書	授業中に、参考文献、参考WebサイトURLを紹介する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	レポート。3000字以上で、指定テーマについて調べて記述する。				50
	学期末試験。正確な知識を問う問題も含む。				50
注意事項	対面かオンライン授業 (ZOOM) かは、4月になって決める。どちらにせよmoodle (ムードル) を利用するので授業前後に必ず確認すること。				
備 考	世界史A、世界史Bを履修していなくても受講できるが、必要な基礎知識の整理は各自で行うこと。発信元が不明なインターネット上の情報には、不正確なものもある。検索の際には、引用元となるWebサイトが信頼できる情報源か否かを、常に確認すること。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域構造論Ⅰ (System of RegionsⅠ)					地域構造論Ⅰ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	火 2	宮 町 良 広 E-mail ymiya@oita-u.ac.jp 内線 7684
授業の概要	【地域経済の構造や活性化を学習・研究するための基本的論点を解説します】 スポーツに強いチームと弱いチームがあるように、地域活性化にも「成功」する地域と「失敗」する地域があります。両者を分けるものはいったい何でしょうか。本講義では、経済活性化の視点から日本の地域構造と地域政策について学習します。講義を中心に、小テストとセットで進めます。毎回の講義、テキストの理解、小テストに備えた学習、返却答案による弱点チェックを繰り返すことで、卒業後も使える学習成果が身に付きます。				
具体的な到達目標					
目標1	日本の地域構造をとらえるための基本的考え方を理解し、文章で説明できる				
目標2	日本の地域構造の全体像を理解し、文章で説明できる				
目標3	地域政策と経済活性化の関係について理解し、文章で説明できる				
目標4	教員自身の目標「難しいことをわかりやすく、わかりやすいことをおもしろく、おもしろいことを深く」(作家・井上ひさし)				
目標5					
授業の内容					
1	ジャンプ・スタート：本授業の活用法，就職活動に役立つキャリア学習について				
2	人口からみた日本の地域構造				
3	人口からみた日本の地域構造（続き）				
4	産業立地と日本の地域構造				
5	産業立地と日本の地域構造（続き）				
6	小テスト#1，国土政策の類型化				
7	日本の国土政策の変遷				
8	日本の国土政策の変遷（続き）				
9	新産業都市計画と九州の工業				
10	新産業都市計画と九州の工業（続き）				
11	小テスト#2，大分市の産業経済構造				
12	大分市の産業経済構造（続き）				
13	一村一品運動の軌跡				
14	温泉観光と地域づくり				
15	温泉観光と地域づくり（続き）				
アクティブラーニング	小テスト、対策ノート作成、グループ・ペアでの意見共有、質疑応答と全体共有、採点済みの返却答案による学習振り返り、オンライン課題			その他の授業の工夫	キャリア学習による主体的な学びの喚起、小テストの得点分布や採点講評の開示による振り返りの促進
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	教科書や指定参考文献による予習（10h）。			
	事後学習	授業ノートと文献内容を自分の言葉で整理したテスト対策ノートの作成（20h）。採点済みの返却答案による復習（3h）。			
教科書	文献を配布するか，指定します。指定文献は各自プリントしてください。				
参考書	地図帳（中学や高校で使用したもので可）および電子辞書を持参してください。				
評価法・成績割及評価の	評価方法			割合(%)	小テストの合計得点が60%以上で合格。合格点に達しないが学習意欲のある人には、リベンジ・テストを実施することがあります。
	小テスト（3回）。答案は採点後に返却します。 COVID-19の感染拡大などにより、評価方法を変更する場合があります。その場合は授業でお知らせします。			100	
注意事項	「地域学入門」の理解を前提とします。				
備考	学問は「将来の自分への投資」です。本気で勉強したい、就業力を向上させたいと思う人に適した授業です。オフィスアワー（質問や相談を研究室で受け付ける時間）も利用してください。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
地域構造論Ⅱ (System of Regions Ⅱ)					地域構造論Ⅱ	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	後期	火 2	宮 町 良 広 E-mail ymiya@oita-u.ac.jp 内線 7684	
授業の概要	【地域経済の構造や活性化について自立して学習していく力を養成します】 基本的なねらいは地域構造論Ⅰと同様ですが、本講義では諸外国における地域経済構造、サービス経済下の地域構造など応用的側面に重点をおき、最後に21世紀の地域づくりの事例としてEUの地域政策について考察します。講義を中心に、小テストとセットで進めます。毎回の講義、テキストの理解、小テストに備えた学習、返却答案による弱点チェックを繰り返すことで、卒業後も使える学習成果が身に付きます。					
具体的な到達目標						
目標1	英米やEUにおける地域構造と地域政策について理解し、文章で説明できる					
目標2	経済グローバル化が地域構造に及ぼす影響について理解し、文章で説明できる					
目標3	経済サービス化が地域構造に及ぼす影響について理解し、文章で説明できる					
目標4	教員自身の目標「難しいことをわかりやすく、わかりやすいことをおもしろく、おもしろいことを深く」(作家・井上ひさし)					
目標5						
授業の内容						
1	ジャンプ・スタート：本授業の活用法、就職活動に役立つキャリア学習について					
2	イギリスの地域構造					
3	イギリスの地域構造（続き）					
4	イギリスの地域構造（続き）					
5	経済のグローバル化とアメリカ農村					
6	小テスト#1，経済のグローバル化とアメリカ農村（続き）					
7	産業集積と地域的イノベーション					
8	シリコンバレーの発展					
9	サービス経済下の地域構造					
10	サービス経済下の地域構造（続き）					
11	小テスト#2，サービス経済下の地域構造（続き）					
12	外資系企業と地域構造					
13	外資系企業と地域構造（続き）					
14	EUの地域政策					
15	EUの地域政策（続き）					
アクティブラーニング	小テスト、対策ノート作成、グループ・ペアでの意見共有、質疑応答と全体共有、採点済みの返却答案による学習振り返り				その他の授業の工夫	キャリア学習による主体的な学びの喚起、小テストの得点分布や採点講評の開示による振り返りの促進
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書や指定参考文献による予習（10h）。				
	事後学修	授業ノートと文献内容を自分の言葉で整理したテスト対策ノートの作成（20h）。採点済みの返却答案による復習（3h）。				
教科書	文献を配布するか、指定します。指定文献は各自プリントしてください。					
参考書	地図帳（中学や高校で使用したもので可）および電子辞書を持参してください。					
評方成績割及評価の	評価方法				割合(%)	小テストの合計得点が60%以上で合格。合格点に達しないが学習意欲のある人には、リベンジ・テストを実施することがあります。
	小テスト（3回）。答案は採点後に返却します。 COVID-19の感染拡大などにより、評価方法を変更する場合があります。 その場合は授業でお知らせします。				100	
注意事項	「地域構造論Ⅰ」の理解を前提とします。					
備考	学問は「将来の自分への投資」です。本気で勉強したい、就業力を向上させたいと思う人に適した授業です。オフィスアワー（質問や相談を研究室で受け付ける時間）も利用してください。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教員の実務経験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実務経験をいかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域発展論Ⅰ (Regional Development Ⅰ)					地域発展論Ⅰ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	前期	集中	美 谷 薫 E-mail mitani@fukuoka-pu.ac.jp 内線
授業の概要	人口減少、あるいは少子高齢化が進んだ現代の日本社会においては、限られた資源の配分をめぐる地域間の競争が激しくなってきたこと、これまで横並びで差異の小さかった公共サービスの分野においても変化が生じてきています。特定のサービス供給の多寡が人口移動を生じさせているという報告もあります。 このような動向を受けて、本講義では、地方行政やまちづくりの側面から、地域の発展のあり方について考えていきます。具体的には、現代日本におけるそれぞれの地域では、これまで、あるいは現在どのようなことが課題となってきたのか、そしてそれらを解決するために、どのような取組が進められているのかについて、地域住民に一番身近な行政の主体である「市町村」の業務を中心に引き上げ、地域の発展（あるいは少なくとも現状維持）のための条件について考えていきます。				
具体的な到達目標					
目標1	地方自治や地方行政の基本的な仕組みや地域社会での役割を理解している。				
目標2	さまざまな情報を基に、地域社会における課題についての的確に捉えることができる。				
目標3	地域社会の課題解決に向けた方策について、自らの考えを説明することができる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	講義ガイダンス				
2	Ⅰ -1. 地域社会の担い手（1）：住民、行政、議会				
3	Ⅰ -2. 地域社会の担い手（2）：協働、新しい公共				
4	Ⅱ -1. 地域社会を取り巻く環境の変化（1）：都市化の進展と都市問題				
5	Ⅱ -2. 地域社会を取り巻く環境の変化（2）：農山村の過疎化				
6	Ⅱ -3. 地域社会を取り巻く環境の変化（3）：少子高齢化と人口減少社会				
7	Ⅱ -4. 地域社会を取り巻く環境の変化（4）：九州地方の事例分析				
8	Ⅱ -5. 地域社会を取り巻く環境の変化（5）：受講者の事例分析報告				
9	Ⅲ -1. 地域社会の課題と行政（1）：安全で安心な地域のまちづくり				
10	Ⅲ -2. 地域社会の課題と行政（2）：少子化の進展と子育て支援				
11	Ⅲ -3. 地域社会の課題と行政（3）：高齢化の進展と高齢者福祉				
12	Ⅲ -4. 地域社会の課題と行政（4）：地域産業の活性化				
13	Ⅲ -5. 地域社会の課題と行政（5）：身近な生活インフラの再構築				
14	Ⅲ -6. 地域社会の課題と行政（6）：都市構造・地域システムの再構築				
15	講義のまとめ				
アクティブ ラーニング	講義中に課する課題でのデータ分析や作業レポートの結果の報告、グループワークの実施など			その他の 授業の工夫	各回の講義における授業内容と関連した課題の実施
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	授業の内容に応じて、事前に出身地の状況などを確認してもらうことがあります。			
	事後学修	授業内容の確認を行うとともに、講義中に終わらなかった小課題の作業や、中間の作業レポートや期末レポートの作成などに取り組む必要があります。レポート作成もあわせて、講義全体で8～10時間程度は要するものと思われます。			
教科書	特に指定しません。関連する資料を毎回配布します。				
参考書	広範な内容を取り上げるため、用語解説に関するものとして以下の2点を挙げておきます。このほかの参考文献は授業中に紹介します。また、身近な市町村の各種計画なども参考資料として活用してください。 阿部 齊ほか 2005.『地方自治の現代用語 第2次改訂版』学陽書房。 増田 正ほか編 2011.『地域政策学事典』勁草書房。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	各回の講義の際に実施する小課題の提出			40	
	作業レポート			20	
	期末レポート			40	
注意事項	講義においては、簡単な統計分析などの作業を実施することがありますので、指示があった場合には色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマホのアプリレベルでよい）を用意してください。				
備考	受講生の皆さんの関心などに応じて、講義の順序を入れ替えたり取り上げる内容を一部変更することがあります。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験	地方公共団体職員				
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無					
教員以外の指導に 関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容	地方公共団体の職員経験のある教員が、地方行政の現場での実態を踏まえながら、地域社会の変化やさまざまな地域課題について取り上げていきます。				

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域発展論Ⅱ (Regional Development Ⅱ)					地域発展論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	集中	後 藤 拓 也 (非常勤講師) E-mail gtakuya@hiroshima-u.ac.jp 内線
授業の概要	現代日本における地域発展について、主に都市地域の発展や農村地域の再編に着目しつつ、経済地理学的な視点から考察する。具体的には、都市地域の発展と農村地域の過疎化、むらおこし・まちづくりの地域的展開、農村景観と農村性、企業の農業参入、植物工場の立地、農産物の輸入自由化とアグリビジネス、農地問題、都市・農村におけるフードデザート問題といった現代日本における地域発展や地域再編、もしくは地域的課題を象徴するような現象を取り上げ、それらを経済地理学分野の先行研究にもとづいて解説する。				
具体的な到達目標					
目標1	現代日本における都市地域の発展メカニズムについて理解し、その内容を文章で表現できる。				
目標2	現代日本における農村地域の再編メカニズムについて理解し、その内容を文章で表現できる。				
目標3	現代日本の都市・農村が抱える地域的課題について理解し、その内容を文章で表現できる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	戦後日本における地域発展 (1) ―日本の国土空間と都市・農村―				
3	戦後日本における地域発展 (2) ―都市地域の発展―				
4	戦後日本における地域発展 (3) ―過疎化の地域性―				
5	戦後日本における地域発展 (4) ―出稼ぎと農村地域―				
6	中間テスト (1)				
7	現代日本における農村地域の変容 (1) ―むらおこし・まちづくりの地理学―				
8	現代日本における農村地域の変容 (2) ―農村景観と農村性の変化―				
9	現代日本における農村地域の変容 (3) ―企業の農業参入と地域変化―				
10	現代日本における農村地域の変容 (4) ―植物工場の立地と地域変化―				
11	中間テスト (2)				
12	現代日本の都市・農村が抱える地域的課題 (1) ―農産物の輸入自由化とアグリビジネス―				
13	現代日本の都市・農村が抱える地域的課題 (2) ―農地問題と農村地域―				
14	現代日本の都市・農村が抱える地域的課題 (3) ―都市・農村におけるフードデザート問題―				
15	最終テスト				
アクティブラーニング	主題図の作成作業、各回の授業で提出するコメントペーパー				その他の授業の工夫 ビデオやDVDなど視聴覚教材の活用
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	シラバスに記載された情報や各回の授業で行う次回授業の予告にもとづいた予習を行う (15h)			
	事後学修	授業で学習した地域の現象や課題に関心を持ち、必要に応じてそれらについて自主的な学修を行う (15h)			
教科書	教科書は指定しない。各回の授業で配布するプリントを使用する。				
参考書	参考書や参考文献については、各回の授業において随時紹介する。				
評価成績割及評価の	評価方法				割合 (%)
	中間テスト (2回)				40
	最終テスト				20
	各回の授業で提出するコメントペーパー				40
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
農村発展論Ⅰ (Rural DevelopmentⅠ)					農村発展論Ⅰ
地域創生教育科目					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3,4	前期	月 2	山 浦 陽 一 E-mail yamaur@oita-u.ac.jp 内線 7688
授業の概要	「田舎で輝き隊！」プログラムの1つとして実施します。「農村発展論Ⅰ・Ⅱ」では、農村の現状と性格の変化、また抱えている課題とその解決の方向性を、実態に即して学ぶことをねらいとしています。「Ⅰ」では、農村の人口の実態と、農村で活躍する若者、大学生について解説します。				
具体的な到達目標					
目標1	農村の人口の推移とその背景を理解する				
目標2	地域おこし協力隊、大学生、農大生等農村で活躍する若者の実態を理解する				
目標3	キーワードとしての「関係人口」の内容と背景を理解し自身もその一人として行動する				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス-講義の目的と進め方-				
2	若者の「田園回帰」				
3	農村の人口ピラミッド				
4	農村の人口と産業				
5	農村での「関係人口」の広がり背景				
6	「地域おこし協力隊」とは？				
7	地域おこし協力隊の課題と今後の方向性				
8	地域おこし協力隊の実像（ゲスト招聘）				
9	「域学連携」の広がり背景				
10	「田舎サークル」の広がり背景（ゲスト招聘）				
11	若者の新規就農				
12	農大生の実像（ゲスト招聘）				
13	「関係人口」としての私				
14	まとめ・ワークショップ				
15	フィールドワーク				
アクティブラーニング	講義中はペアワークを積極的に取り入れます。学生同士でお互いに説明し、また議論をすることで、理解を深めてもらうことを目指します。				その他の授業の工夫 座学、ゲスト招聘、フィールドワークを組み合わせることで、学習効果を高めます。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	何回か、今回の内容に関連する論文、レポート、新聞記事等を読んでください。時間は30-60分程度です。			
	事後学修	講義内容を振り返り、「準備学修」で読んだ論文、レポート等を読み直してください。時間は30-60分程度です。			
教科書	教科書は指定しませんが、今回の内容に関連する論文、レポートを紹介、配布することがあります。それを読んでください。講義は、主にパワーポイントでおこない、スライドを印刷し配布する予定です。				
参考書	講義内容に関連する書籍やビデオ、講演会等を紹介します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	各回の小レポート				50
	期末試験				50
注意事項	特になし。				
備 考	講義の内容は、受講者の要望、時宜に応じて変更することがあります。また、外部からテーマに関連するゲストを招き、議論に加わってもらう可能性があります。数回フィールドワークプログラムを準備します。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
農村発展論Ⅱ (Rural Development II)					農村発展論Ⅱ	
地域創生教育科目						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	後期	月 2	山 浦 陽 一 E-mail yamaur@oita-u.ac.jp 内線 7688	
授業の概要	「田舎で輝き隊！」プログラムの1つとして実施します。「農村発展論Ⅰ・Ⅱ」では、農村の現状と性格の変化、また抱えている課題とその解決の方向性を、実態に即して学ぶことをねらいとしています。「Ⅱ」では、農村の社会、経済の実態と、課題解決のプラットフォームとしての「地域運営組織」について解説します。					
具体的な到達目標						
目標1	農村の社会、経済の実態を理解する					
目標2	地域運営組織の役割と多様性について理解する					
目標3	地域運営組織と行政の性格、中間支援組織の必要性を理解する					
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	ガイダンス-講義の目的と進め方-					
2	「農村」の定義-農村らしさとは？-					
3	農村のコミュニティの課題 - RMO設立の背景①-					
4	農協の実態と課題 - RMO 設立の背景②-					
5	農村の公民館・地区社協 - RMO 設立の背景③-					
6	地域運営組織とは？					
7	地域運営組織の成果と広がり					
8	地域運営組織の発展のプロセス①					
9	地域運営組織の発展のプロセス②					
10	地域運営組織の発展のプロセス③					
11	地域運営組織と市役所の関係					
12	中間支援組織の必要性					
13	中間支援組織としての「輝き隊」					
14	まとめ・ワークショップ					
15	フィールドワーク					
アクティブラーニング	講義中はペアワークを積極的に取り入れます。学生同士でお互いに説明し、また議論をすることで、理解を深めてもらうことを目指します。				その他の授業の工夫	座学、ゲスト招聘、フィールドワークを組み合わせることで、学習効果を高めます。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	何回か、次回の内容に関連する論文、レポート、新聞記事等を読んでください。時間は30-60分程度です。				
	事後学修	講義内容を振り返り、「準備学修」で読んだ論文、レポート等を読み直してください。時間は30-60分程度です。				
教科書	教科書は指定しませんが、次回の内容に関連する論文、レポートを紹介、配布することがあります。それを読んでください。講義は、主にパワーポイントでおこない、スライドを印刷し配布する予定です。					
参考書	講義内容に関連する書籍やビデオ、講演会等を紹介します。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	各回の小レポート				50	
	期末試験				50	
注意事項	特になし。					
備 考	講義の内容は、受講者の要望、時宜に応じて変更することがあります。また、外部からテーマに関連するゲストを招き、議論に加わってもらう可能性があります。数回フィールドワークプログラムを準備します。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
農村再生セミナー (Rural Revitalization Seminar)					農村再生演習
地域創生教育科目					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	前期	集中	山 浦 陽 一 E-mail yamaur@oita-u.ac.jp 内線 7688
授業の概要	「田舎で輝き隊！」プログラムの1つとして実施します。現地に宿泊しながら、地域の皆さんとともに農村再生の実践活動に取り組むことを通じて、農山村の実態や課題、解決策や必要な支援について考えます。				
具体的な到達目標					
目標1	農山村の実態や課題、解決策や必要な支援についての理解を深める 当事者の一人として課題解決にかかわる				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス・アイスブレイク				
2	ワークショップ解説・体験				
3	対象地域の社会・経済のデータ整理				
4	フィールドワークの手順・注意事項確認				
5	対象地域での地域概況把握				
6	対象地域でのインターン①				
7	対象地域でのインターン②				
8	対象地域の意向調査・意見交換①				
9	対象地域の意向調査・意見交換②				
10	調査結果取りまとめ				
11	ワークショップ設計				
12	ワークショップ試行				
13	ワークショップ実施①				
14	ワークショップ実施②				
15	振り返り・まとめ				
アクティブ ラーニング	講義中はペアワーク、グループワークを積極的に取り入れます。学生同士でお互いに説明し、また議論をすることで、理解を深め、またチームワークの向上を目指します。				その他の 授業の工夫 座学、フィールドワーク（調査・ワークショップ）を組み合わせることで、学習効果を高めます。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義開始前に、対象地域の概況やフィールドワーク、ワークショップについての資料を収集し、理解する。時間は資料収集60分、理解60分、整理30分程度。			
	事後学修	ヒアリングの整理や、ワークショップの設計等、講義中に終わらなかった作業を実施。時間は1回あたり30-90分程度。			
教科書	特に指定しません。				
参考書	特に指定しません。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	講義中の発言・行動の内容から判断します				100
注意事項	本講義は集中講義として2月中旬に行います。また基本的に受講できるのは「農村発展論」やゼミ等「田舎で輝き隊！」関連プログラムを受講している（していた）学生に限定します。また地域や宿泊施設等の都合で人数も限定します（10人程度）。プログラムの詳細は、12月ごろに確定させ掲示します。				
備 考	合宿形式で、地域の皆さんと農村再生を実践するプログラムです。短期集中で体も頭も使いながら、農村再生のプレーヤーの一人として活動します。主役は皆さんです。是非一緒に地域を盛り上げましょう！				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
地域と商業 (Region and Commerce)					地域と商業	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	後期	火 3	松 隈 久 昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680	
授業の概要	都市および地域における商業の構造、行動、成果を分析し、その役割を理解すること。また、商業の現状と問題点を理解すること。					
具体的な到達目標						
目標1	地域における商業を分析できるようになること。					
目標2						
目標3						
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	商業の役流通と商業の役割（1）					
2	流通と商業の役割（2）					
3	発展する商業					
4	流通・商業と外部環境（1）					
5	流通・商業と外部環境（2）					
6	システム革新と流通・商業					
7	進展する流通チャネル					
8	激変する小売業（1）					
9	激変する小売業（2）					
10	卸売業					
11	E リテイル					
12	まちづくりと小売業（1）					
13	まちづくりと小売業（2）					
14	まちづくりと小売業（3）					
15	まとめ					
アクティブ ラーニング	レポートにより知識の確認を行う。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。				
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べる。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。				
教科書	初回の授業時に指定する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。毎回、テキストからクイズを出す予定です。					
参考書	講義中に紹介する。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	レポート（クイズを含む）				50	
	試験				50	
注意事項						
備考						
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域と交通 (Transport and Regions)					地域と交通
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	前期	水 1	大 井 尚 司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールをお願いします)
授業の概要	地域システム学科の科目であることを意識し、地域の社会・経済などの問題に交通がどのようにかかわっているかについて、身近な問題を題材に取り上げ基礎情報を提供することで、交通問題の地域・社会・経済における重要性と、地域における交通関連の問題を考えるひとつの道筋を提供することを狙いとしています。また、本学に観光を専門とする講義が開講されていないことに鑑み、観光の問題も考えるきっかけ作りになるような講義を行います。				
具体的な到達目標					
目標1	地域で起きている交通問題の実態を正確に把握すること				
目標2	他の社会問題・政策との関係などについても理解し、交通問題が密接不可分であることを理解すること				
目標3	日々接する交通に関する社会・経済・地域の問題に対して知識を活かして自身の考えを持つようになること				
目標4	観光面と交通・社会科学の関係を理解し、現状への関心を深めるようになる				
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス、イントロダクション（地域と交通の関わり、学問とのつながりなど）				
2	身近な世界の交通問題（1）商業と交通				
3	身近な世界の交通問題（2）医療と交通				
4	身近な世界の交通問題（3）教育と交通				
5	身近な世界の交通問題（4）観光と交通				
6	進度調整				
7	映像視聴または講演会（時間内でレポートを課します）				
8	道路整備・高速道路整備と地域の問題				
9	空港整備と地域の問題				
10	高速鉄道整備と地域の問題				
11	地方交通に関する制度・財源の変化と現状＊				
12	地方交通に関わる主体と組織について＊				
13	交通と観光に関するトピックス（1）＊				
14	交通と観光に関するトピックス（2）＊				
15	まとめ、試験案内				
アクティブ ラーニング	毎回の講義でミニッツペーパーを配布し質問等を書いてもらい、次回以降の講義でリプライします。このミニッツペーパーで出席チェックを行います。			その他の 授業の工夫	現場と学問との接点を持つきっかけを作るため、講師が交通・観光の現場に携わっている経験から得た知識や資料を活かした内容で講義を行います。きちんと出席した人が報われるよう、欠席回数の多い人にはペナルティを課します。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	ニュースや新聞・雑誌などで出る観光・交通関係の記事に注目し、本講義で学んだ内容と関係づけて理解、あるいは問題意識を持つようにすることを勧めます。			
	事後学修	講義レジュメの整理を行ってください（試験対策にもなります）。紹介する参考文献や政策資料などにも目を通すとなお良いです。			
教科書	使用しません（適切な書物がないため、資料を配布します）。【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。				
参考書	初回に配布するコースシラバス内、また講義中に随時紹介します。現状の理解として、さしあたり以下の書物を紹介しておきます。国土交通省『国土交通白書』各年版国土交通省観光庁『観光白書』各年版（一財）運輸総合研究所（運輸政策研究機構）『地域交通年報』各年版				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合（％）	学期末試験は資料参照可とします。7回以上欠席の場合は受験を認めません。レポートは、4回以上欠席の場合はペナルティとして減点します（10％～50％）。7回以上欠席の場合は0点とします（成績評価の対象外）
	学期末試験（記述式、資料参照可）			50	
	講演会または映像視聴時に課すレポート			50	
注意事項	（1）講義はパワーポイントで行い、また双方向性確保のためミニッツペーパーによる出席を採り感想や質問等に対応します。 （2）15分以上の遅刻、学校の認める「公欠」「出席停止」事例以外の欠席は全て欠席扱いです。 （3）欠席回数が4回以上の場合は、ペナルティとしてレポート点から減点があります。				
備 考	1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方等に関する詳細なコースシラバスを配布します。なお、政策の動向等によって、授業の内容は大幅に変更・割愛することがあります（特に＊の内容）。教養科目の「交通からみた地域社会」と内容の重複があり得ますので、両方の受講は極力避けてください。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験	旅行会社（交通事業者系）、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○				
教員以外の指導に関わる実務経験者	講演会で、実務担当者（過年度は交通事業者）を招聘しての講演会を行う可能性があります。				
実 務 経 験 を いかした教育内容	講師の実務経験（国交省・自治体の政策形成への関与を含む）を反映した講義を行うとともに、実践面の理解も深まる内容になっています。				

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域福祉論 (Community Welfare and Community Social Work)					地域福祉論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	未定	三 好 禎 之 E-mail 内線
授業の概要	人口ボーナス期の福祉施策は、問題・課題を抱えた人を福祉施設に入居させるといった福祉サービスが展開されてきた。だが、人口オーナス期を迎えた現代社会においては、専門的な保健・医療・福祉サービスを利用しつつ、家族や地域住民に支えられながら住み慣れた地域で暮らしていく、「地域包括ケアシステム」の実現が目指されている。本講義は、「地域包括ケアシステム」を実現するための地域福祉とは何か、また、人口減少社会を迎えた現代社会における社会資源の開発方法を修得することを目的とする。さらに、地域で相互に支え合うための基盤的な知識と方法を学び、現代社会で求められる地域福祉を学習する。				
具体的な到達目標					
目標1	現代社会における地域の福祉的課題を列挙できる。また、現代社会における福祉的問題・課題の背景を説明できる。				
目標2	「地域包括的ケアシステム」の理念を理解し、地域福祉の主体による実践を列挙できる。				
目標3	社会資源の開発を理解し、その方法論を説明できる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	オリエンテーション 地域福祉とは一地域福祉の基本的な考え方ー				
2	人口減少社会の地域福祉				
3	地域福祉の新たな枠組み ー地域福祉の構成要素と構成要件ー				
4	地域福祉の対象と課題 ー福祉問題群の事象と課題ー				
5	地域福祉の思想と理論				
6	福祉コミュニティの形成ーコミュニティ論を超えてー				
7	地域福祉の政策と計画				
8	地域福祉計画の戦略				
9	地域福祉計画の住民参加と組織化				
10	居住福祉のまちづくり				
11	地域福祉の実践と運営 ー過疎地域で住み続けるためにー				
12	地域包括ケアシステムとネットワーク				
13	地域福祉推進組織と多元的サービス供給				
14	地域福祉の主体形成とコミュニティ・ソーシャルワーク				
15	まとめ：新時代の地域福祉構想				
アクティブ ラーニング	A：小テスト B：グループ・ディスカッション ミニッツ・ペーパー				その他の 授業の工夫 動画の活用
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	シラバスを参考に各回のテーマについて、教科書や参考書、関連資料などで予習を行い、質問事項や疑問点なども含めてノートに整理しておく。			
	事後学修	事後学習としては、受講後、予習内容と関連づけて、各自ノートに整理するようにする。質問などがある場合には、「リアクション・ペーパー」に記入し、次の講義の終了までには理解できるようにする。			
教科書	講義内で、レジュメ、資料を配布します。				
参考書	野口定久 (2016)『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房 藻谷浩介 (2013)『里山資本主義』角川oneテーマ21 宇沢弘文 (2000)『社会的共通資本』岩波新書				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テスト レポート				60 40
注意事項	講義中の携帯の操作や私語は厳格に禁じます。				
備考	学習相談				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験	三重県四日市市地域福祉計画策定委員長 大分県日田市地域福祉計画策定委員長 大分市社会福祉審議会委員				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容	三重県四日市市地域福祉計画 健康寿命延伸講演会 三重県四日市市地域福祉計画 再犯防止推進計画講演会				

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地方行政論 (Local Administration)					地方行政論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	集中	中 嶋 直 木 (非常勤講師) E-mail nakaji83@kumamoto-u.ac.jp 内線
授業の概要	自治体の様々な政策を行政法及び地方自治法という視点から学ぶ。自治体によるオーソドックスな政策から最新のユニークな政策まで、多種多様な政策を学びながら、それらがどのような法的仕組みを利用しているのかを理解して、行政法や地方自治法の知識を深めることを目指す。 前半は以下の事項に関する基礎知識を学ぶ。①行政法や地方自治法、②ルール（条例）策定、③ルールの執行、④ルールやその執行の評価、⑤ルール策定や執行のための組織と財務。後半は、自治体で実際に行われている政策をいくつか取り上げて、前半で学んだ知識を踏まえて一つ一つ丁寧に検証してゆく。				
具体的な到達目標					
目標1	「法律による行政の原理」の内容を説明することができるようになる。				
目標2	「法律による行政の原理」に照らして、どのような活動なら自治体ができるかを説明できるようになる。				
目標3	条例がどのような場合に違法となるかを説明することができるようになる。				
目標4	行政代執行の仕組みを説明することができるようになる。				
目標5	行政刑罰と過料の仕組みを説明することができるようになる。				
目標6	自治体の政策が上記のどの仕組みを利用したものであるかを説明できるようになる。				
授業の内容					
1	授業のガイダンス、行政法の基礎知識（１）－法律による行政の原理と行政手続				
2	地方自治法の基礎知識（２）－自治体の種類や事務の種類				
3	ルール（条例）の策定の基礎知識（１）－自治体で使われるルールの種類				
4	ルール（条例）の策定の基礎知識（２）－ルールが違法となる場合				
5	ルールの執行の基礎知識（１）－行政代執行				
6	ルールの執行の基礎知識（２）－行政刑罰と過料				
7	ルールとその執行の評価－オンブズマン制度、行政不服審査法、行政事件訴訟法、住民訴訟、条例の見直し制度				
8	ルールとその執行のための組織と財務				
9	前半のまとめと小テスト				
10	事例研究（１）空き家対策条例，放置自転車対策				
11	事例研究（２）自治体の新型インフルエンザ対策				
12	事例研究（３）中高層マンション対策				
13	事例研究（４）災害の復興－被災市街地復興土地地区画整理事業				
14	事例研究（５）自治体の緊急事態宣言－熊本市業務継続計画の策定等に関する条例				
15	総まとめ				
アクティブ ラーニング	一部において「ソクラテスメソッド」を取り入れる。 小テストの実施。				その他の 授業の工夫 映画等の映像の活用。
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)。			
	事後学修	授業で学習したことを活かし、レポートの完成度を高める（10h）。			
教 科 書	レジュメを配布する予定である。				
参 考 書	さしあたり、磯崎初仁『自治体政策法務講義 改訂版』（第一法規・2018）、②中川義朗ほか編『地方自治の法と政策』（法律文化社・2019）				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	レポート 小テスト× 1				60 40
注意事項					
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地方財政論 (Local Public Finance)					地方財政論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	水 1	小 野 宏 E-mail onohiro@oita-u.ac.jp 内線 7710
授業の概要	地方財政は、上下水道や警察・消防などの提供を通じて、我々の生活と密接に関係している。一方で、地方財政の仕組みや国と地方との関係などは、複雑なものである。本講義では、地方財政を、歳出入の面を中心に理論と制度の両面から考察し、地方財政の現状と課題について理解することをねらいとする。				
具体的な到達目標					
目標1	地方財政制度について理解する。				
目標2	地方の歳入構造の特徴や地方税について理解する。				
目標3	地方の歳出構造の特徴や地方公共サービスの理論について理解する。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	地方財政とは				
3	国と地方の役割				
4	地方財政の歳出入構造				
5	地方公共サービス（1）				
6	地方公共サービス（2）				
7	地方税の理論と体系（1）				
8	地方税の理論と体系（2）				
9	地方交付税（1）				
10	地方交付税（2）				
11	国庫支出金（1）				
12	国庫支出金（2）				
13	地方財政の歩み（1）				
14	地方財政の歩み（2）				
15	まとめ				
アクティブラーニング	学生の理解を確認するため、講義の途中で定期的にクイズを出す。				その他の授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書・配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する。(15h)			
	事後学修	教科書・配布資料や参考文献等を用いて復習する。(15h)			
教科書	未定				
参考書	講義中に紹介する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	学期末試験				70
	レポート・小テスト等の提出物				30
注意事項	特になし				
備 考	特になし				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
憲法Ⅰ (ConstitutionⅠ)					憲法Ⅰ	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	前期	月 3	青 野 篤 E-mail aaono@oita-u.ac.jp 内線 7726	
授業の概要	憲法Ⅰでは、日本国憲法が保障する各種の人権の意義・内容・限界を関連する学説・判例を踏まえて、講義します。この講義を通して、日本社会で生起しているさまざまな人権問題を日本国憲法の視点から理論的・客観的に分析できるように、その土台となる基礎的な知識と考え方を体系的に身につけることをねらいとします。					
具体的な到達目標						
目標1	日本国憲法がどのような人権をなぜ保障しているか説明できる。					
目標2	日本国憲法が保障する各種の人権の内容と限界を説明できる。					
目標3	日本国憲法が保障する各種の人権に関する学説の対立点を説明できる。					
目標4	日本国憲法が保障する各種の人権に関する重要判例の概要を説明できる。					
目標5						
授業の内容						
1	職業の自由					
2	財産権					
3	思想・良心の自由					
4	表現の自由（１）					
5	表現の自由（２）					
6	信教の自由					
7	学問の自由					
8	生存権					
9	教育権					
10	労働権					
11	受益権					
12	幸福追求権					
13	法の下での平等					
14	人権の享有主体					
15	人権の到達範囲					
アクティブラーニング	公務員試験問題を活用した小テストを複数回実施し、知識の定着を確認します。				その他の授業の工夫	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書の該当箇所を精読する（15h）。				
	事後学修	配布プリント、教科書、小テストを用いて復習する（30h）。				
教科書	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1人権〔第7版〕』（有斐閣、2019年）※受講者は、教科書販売期間中に各自で購入して下さい。					
参考書	主要なものは、１回目の講義の際にまとめて紹介します。その他、必要に応じて、講義中に紹介します。					
評価法・成績割及評価の割合	評価方法				割合(%)	
	小テスト				40	
	期末試験				60	
注意事項	・憲法を全体として理解するために、憲法Ⅱとあわせて受講することが望ましい。 ・遅刻、途中退出、私語、携帯電話の使用等、授業に集中できる環境を乱す行為は厳禁とします。 ・レジュメ等の資料の再配布は原則として行いません。					
備考						
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教員の実務経験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実務経験をいかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
憲法Ⅱ (ConstitutionⅡ)					憲法Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	月 3	青 野 篤 E-mail aaono@oita-u.ac.jp 内線 7726
授業の概要	憲法Ⅱでは、国会・内閣・裁判所等の日本国憲法の統治機構とその基本原理に関する重要論点について、学説・判例を踏まえて、講義します。この講義を通して、現在の日本の憲法政治のあり方を日本国憲法の視点から理論的・客観的に分析できるように、その土台となる基礎的な知識と考え方を体系的に身につけることをねらいとします。				
具体的な到達目標					
目標1	国会・内閣・裁判所の基本的な仕組みとその権限について説明できる。				
目標2	法の支配、立憲主義、権力分立などの統治機構の基本原則について説明できる。				
目標3	統治機構の重要論点に関する学説の対立点を説明できる。				
目標4	統治機構に関する重要判例の概要を説明できる。				
目標5					
授業の内容					
1	司法権の意義と限界（1）				
2	司法権の意義と限界（2）				
3	司法権の独立・組織・権能				
4	違憲審査制				
5	国会と内閣				
6	国会の権限				
7	内閣の権限				
8	国会と内閣の内部組織				
9	法の支配・権力分立				
10	国民主権				
11	有権者と国会				
12	選挙制度と選挙権				
13	天皇				
14	戦争の放棄				
15	地方公共団体の原理・組織・権能				
アクティブラーニング	公務員試験問題を活用した小テストを複数回実施し、知識の定着を確認します。				その他の授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書の該当箇所を精読する（15h）。			
	事後学修	配布プリント、教科書、小テストを用いて復習する（30h）。			
教科書	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法2統治〔第7版〕』（有斐閣，2019年） ※受講者は、教科書販売期間中に各自で購入して下さい。				
参考書	主要なものは、1回目の講義の際にまとめて紹介します。その他、必要に応じて、講義中に紹介します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テスト				40
	期末試験				60
注意事項	・憲法を全体として理解するために、憲法Iとあわせて受講することが望ましい。 ・遅刻、途中退出、私語、携帯電話の使用等、授業に集中できる環境を乱す行為は厳禁とします。 ・レジュメ等の資料の再配布は原則として行いません。				
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)						旧授業科目名	
民法Ⅰ (Civil Law Ⅰ)						民法総則	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員		
選択	2	2, 3, 4	前期	木 4	藤 村 賢 訓 E-mail masa-f@oita-u.ac.jp m.fujimura.hf@fukuoka-u.ac.jp 内線		
授業の概要	「民法総則」(民法2条～174条の2)に関する基礎的な知識および重要論点に関する判例・学説の知識とともに、民法導入として民法の全体像を把握させることを目的とします。そのうえで、民法総則における各種の法理論が、具体的な事件の解決に果たしている役割を理解し、その社会的背景にも目を向けながら、広い視野での民事法的解決の視点を獲得し、あらゆる社会問題について主体的に解決策を模索する姿勢を身につけていただきたいと思います。						
具体的な到達目標							
目標1	民法の全体構造・基本原理を理解する。						
目標2	民法総則の諸制度、各条文の趣旨・要件・効果を理解する。						
目標3	民法総則に関する判例・学説を理解する。						
目標4	実際の紛争事例について法学的視点から自分の意見を表現できる。						
目標5							
授業の内容							
1	導入						
2	自然人						
3	法人						
4	物						
5	法律行為						
6	意思表示（１）－ 心裡留保・通謀虚偽表示						
7	意思表示（２）－ 錯誤						
8	意思表示（３）－ 詐欺・強迫						
9	代理（１）						
10	代理（２）－ 表見代理						
11	代理（３）－ 無権代理						
12	無効・取消						
13	条件・期限・期間						
14	時効（１）－ 消滅時効						
15	時効（２）－ 取得時効						
アクティブ ラーニング	総則分野は抽象的な概念が多いため、可能な限り裁判例や事例を用いて理解を深めるとともに、公務員試験問題を活用しmoodleを通じておこなう課題につき、講義内でコメントを行うことで知識の定着の確認や応用に資することを目指します。					その他の 授業の工夫	講義内容をまとめたレジュメを事前配布しますので、簡単に内容を把握した後講義に臨まれると理解が進むと思います。またさらに深く学びたい方のために関連判例を示しますので、講義後に実際の判例にあたってみてください。
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	講義にて検討する範囲のテキストの通読					
	事後学修	事後の振り返りおよび疑問点の解消					
教科書	(1)山田卓生他編『民法Ⅰ 総則[第4版]』（有斐閣、2018年）※民法は大規模改正がありますので、必ず第4版を購入ください。 (2)講義には、小さなもので構いませんので必ず六法を携帯すること。						
参考書	開講時に指摘する(各自の学習の目的・進行状況に合わせて選択して下さい)。 講義では、適宜レジュメ・資料等を事前配布します。						
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法					割合(%)	
	最終レポート					50	
	中間レポート					30	
	確認課題					20	
注意事項							
備 考							
リンク							
	URL						
担当教員の実務経験の有無							
教 員 の 実 務 経 験							
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無							
教員以外の指導に関わる実務経験者							
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容							

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
民法Ⅱ (Civil Law Ⅱ)					物権法	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	2, 3, 4	後期	月 1	秋 山 智恵子 (Chieko AKIYAMA) E-mail akiyama-chieko@oita-u.ac.jp 内線 7704	
授業の概要	「物権法」(民法第175条～第398条の22)に関する基礎的な知識および重要論点に関する判例・学説の把握を目的とする。					
具体的な到達目標						
目標1	各条文の趣旨・要件・効果を理解する。					
目標2	判例・学説を理解する。					
目標3	関連する諸制度を理解する。					
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	導入					
2	物権変動 (1) 物権変動概論					
3	物権変動 (2) 不動産物権変動					
4	物権変動 (3) 動産物権変動					
5	所有権 (1) 取得・内容・限界					
6	所有権 (2) 物権的請求権					
7	占有権					
8	用益物権－地上権・永小作権・地役権・入会権					
9	担保物権概論					
10	約定担保物権 (1) 抵当権①					
11	約定担保物権 (2) 抵当権②					
12	約定担保物権 (3) 抵当権③					
13	約定担保物権 (4) 質権					
14	非典型担保物権					
15	法定担保物権－留置権・先取特権					
アクティブ ラーニング	裁判で実際に争われた事例等を提示し、関連する条文を適用できるか確認します。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	予習・復習等、講義内容の定着に必要な学習を行って下さい。				
	事後学修	新聞・ニュースなどで身近な法律問題に触れ、関心を持って下さい。				
教科書	必ず小型の六法を持参して下さい(詳細は、開講時に指示します)。					
参考書	淡路剛久他著『民法Ⅱ－物権[第4版補訂]』(有斐閣、2019年)。講義では、必要に応じてレジュメ等の資料を配布します。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	期末試験 (持ち込み不可)				100	
注意事項	講義中、他の学生の受講の妨げになる行為を禁止する。「法学入門」および「民法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。					
備 考	公務員試験や各種資格試験の勉強のために、ただ判例・通説を暗記するというだけではなく、「法」という小さな視点から「社会」という大きな視野を展望するということを意識して欲しいと思います。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
民法Ⅲ (Civil Law Ⅲ)					債権総論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	前期	月 1	秋 山 智恵子 (Chieko AKIYAMA) E-mail akiyama-chieko@oita-u.ac.jp 内線 7704
授業の概要	「債権総論」(民法第399条～第520条の20)に関する基礎的な知識および重要論点に関する判例・学説の把握を目的とする。				
具体的な到達目標					
目標1	各条文の趣旨・要件・効果を理解する。				
目標2	判例・学説を理解する。				
目標3	関連する諸制度を理解する。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	導入				
2	債権の目的・種類				
3	債権の効力(1)				
4	債権の効力(2)強制履行				
5	債権の効力(3)債務不履行				
6	責任財産の保全(1)債権者代位権				
7	責任財産の保全(2)詐害行為取消権				
8	多数当事者の債権関係(1)分割債権関係・不可分債権関係				
9	多数当事者の債権関係(2)連帯債務				
10	多数当事者の債権関係(3)保証				
11	債権の移転(1)債権譲渡				
12	債権の移転(2)債務引受				
13	債権の消滅(1)債務の履行・弁済				
14	債権の消滅(2)弁済による代位				
15	債権の消滅(3)相殺				
アクティブラーニング	裁判で実際に争われた事例等を提示し、関連する条文を適用できるか確認します。				その他の授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	予習・復習等、講義内容の定着に必要な学習を行って下さい。			
	事後学習	新聞・ニュースなどで身近な法律問題に触れ、関心を持って下さい。			
教科書	必ず小型の六法を持参して下さい(詳細は、開講時に指示します)。				
参考書	野村豊弘他著『民法Ⅲ-債権総論[第4版]』(有斐閣、2018年)。講義では、必要に応じてレジュメ等の資料を配布します。				
評価方法 成績評価割合及び評価の	評価方法				割合(%)
	期末試験(持ち込み不可)				100
注意事項	講義中、他の学生の受講の妨げになる行為を禁止する。「法学入門」および「民法Ⅰ」、「民法Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。				
備考	公務員試験や各種資格試験の勉強のために、ただ判例・通説を暗記するというだけではなく、「法」という小さな視点から「社会」という大きな視野を展望するということを意識して欲しいと思います。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
労働関係法Ⅰ (Labor LawⅠ)					労働関係法Ⅰ	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3,4	前期	金 3	小 山 敬 晴 E-mail taukappa09@oita-u.ac.jp 内線 7692	
授業の概要	本講義は、「労働関係法Ⅱ」の講義と併せて日本の労働法の全体像を理解できるように行います。「労働関係法Ⅰ」では、主に労働基準法、労働契約法の基礎的内容と判例法理を理解し、職場で本来守られるべき法律上のルールを習得することを目指します。それだけでなく、現場で実際に生じている労働問題と、労働関係法の限界点を知り、問題への解決方法を考える力を養うことを目指します。					
具体的な到達目標						
目標1	労働法という法分野の存在意義を理解すること。					
目標2	労働基準法、労働契約法の条文内容と判例法理を理解すること。					
目標3	法学的文章を記述できるようになること。					
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	労働法とは何か 1					
2	労働法とは何か 2					
3	労働者とは誰か					
4	使用者とは誰か					
5	労働法とマルチチュード					
6	労働契約の成立					
7	労働条件決定のプロセス					
8	労働者、使用者の権利義務 1					
9	労働者、使用者の権利義務 2					
10	労働契約内容の個別の変更					
11	労働契約内容の集団の変更 1					
12	労働契約内容の集団の変更 2					
13	労働契約の終了 1					
14	労働契約の終了 2					
15	労働契約の当事者の変動・拡張					
アクティブラーニング	法律内容の知識定着を図るために、単元ごとに課題を出し、授業内で発言を求める。また知識定着の確認のため、小テストを実施する。				その他の授業の工夫	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	次の時限で扱う教科書の該当箇所の読了：30分				
	事後学修	確認問題の実施：30分				
教科書	小宮文人・本久洋一編著『労働法の基本[第2版]』（法律文化社、2021年4月刊行予定）、および有斐閣または三省堂の最新の小型の六法(判例のついていないもの)を持参すること。法学六法(信山社)は労働関係法規が収録されておらず、使いものにならない。					
参考書	授業内で適宜指示する。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	平常点は小テストおよび課題の提出・授業内の発言状況により評価する。授業に出席しても平常点にはなりません。
	期末試験 平常点				60 40	
注意事項	「法学入門」、「憲法Ⅰ・Ⅱ」、「民法総則」を履修済みの学生を対象とし、これらの知識があることを前提に授業を進めます。					
備 考	労働法の全体像の理解のために、労働関係法Ⅱも併せて受講することが望ましい。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
労働関係法Ⅱ (Labor Law II)					労働関係法Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	金 3	小 山 敬 晴 E-mail taukappa09@oita-u.ac.jp 内線 7692
授業の概要	本講義は、「労働関係法I」の講義と併せて日本の労働法の全体像を理解できるように行います。「労働関係法II」では、主に労働基準法、労働契約法、労働組合法の基礎的内容と判例法理を理解し、職場で本来守られるべき法律上のルールを習得することを目指します。それだけでなく、現場で実際に生じている労働問題と、労働関係法の限界点を知り、問題への解決方法を考える力を養うことを目指します。				
具体的な到達目標					
目標1	労働法という法分野の存在意義を理解すること。				
目標2	労働基準法、労働契約法、労働組合法の条文内容と判例法理を理解すること。				
目標3	法学的文章を記述できるようになること。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	賃金 1				
2	賃金 2				
3	労働時間規制の基礎 1				
4	労働時間規制の基礎 2				
5	労働時間規制の現在 1				
6	労働時間規制の現在 2				
7	労働時間規制の現在 3				
8	女性労働 1				
9	女性労働 2				
10	労災補償 1				
11	労災補償 2				
12	団結権・不当労働行為救済制度				
13	団体交渉と労働協約				
14	団体行動と集団的労使紛争処理				
15	労働法の現代的課題と展望				
アクティブ ラーニング	法律内容の知識定着を図るために、単元ごとに課題を出し、授業内の発言を求める。 また知識定着の確認のため、小テストを実施する。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	次の時限で扱う教科書の該当箇所の読了：30分			
	事後学修	確認問題の実施：30分			
教科書	小宮文人・本久洋一編著『労働法の基本〔第2版〕』（法律文化社、2021）、および有斐閣または三省堂の最新の小型の六法（判例のついていないもの）を持参すること。法学六法（信山社）は労働関係法規が収録されておらず、使いものにならない。				
参考書	授業内で適宜指示する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	期末試験 平常点				60 40 平常点は小テストおよび課題の提出・授業内の発言状況により評価する。授業に出席しても平常点にはなりません。
注意事項	「法学入門」、「憲法Ⅰ・Ⅱ」、「民法総則」、「労働関係法Ⅰ」を履修済みである学生を対象とし、これらの知識を前提として授業を進めます。とくに、「労働関係法Ⅰ」を履修していない学生が受講した場合には、「労働関係法Ⅰ」で得られる知識を習得していただく必要があるため、別途レポートを課します。				
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済法 (Economic Law)					経済法
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	前期	集中	田 平 恵 (非常勤講師) E-mail mtahira@mail.saitama-u.ac.jp 内線
授業の概要	独占禁止法の規制対象行為・手続に関する基本事項の理解を深めます。不当な取引制限、私的独占、企業結合、不公正な取引方法について、独占禁止法違反行為か否かを検討する際の要件論を中心に扱います。				
具体的な到達目標					
目標1	独占禁止法がどのような行為を規制対象としているのかを理解する。				
目標2	不当な取引制限、私的独占、企業結合、不公正な取引方法について、独占禁止法違反行為とされるための要件について理解する。				
目標3	事件の処理手続について理解する。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス、経済法の体系				
2	独占禁止法の基本概念				
3	不当な取引制限①：カルテルに関する基本事項、要件				
4	不当な取引制限②：カルテルに関する具体的事例				
5	不当な取引制限③：入札談合				
6	事業者団体規制				
7	私的独占				
8	不公正な取引方法①				
9	不公正な取引方法②				
10	不公正な取引方法③				
11	企業結合①：企業結合規制総論				
12	企業結合②：企業結合事例				
13	独占禁止法における手続①				
14	独占禁止法における手続②				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	課題（意見の形成・表明）、小課題（知識の定着・確認）による自己評価				その他の 授業の工夫 新聞記事、最新トピックの活用
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	独占禁止法に関連したニュース・トピックをフォローする。			
	事後学修	準備学修で認識したことと、授業で学習したことを関連付けて理解する。(どちらかという予習よりも復習に力を注いでください)			
教科書	教科書としての指定はしません。後掲「参考書」欄を参照のこと。				
参考書	岸井大太郎ほか、『経済法－独占禁止法と競争政策（第9版）』有斐閣、2020年、978-4-641-22151-2（ISBN）、2970円 川濱昇ほか、『ベーシック経済法（第5版）』、有斐閣、2020年、978-4-641-22141-3（ISBN）、2310円				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	レポート試験			60	
	小課題			40	
注意事項	独占禁止法の条文を参照するため、用意すること (公正取引委員会のホームページ https://www.jftc.go.jp/dk/guideline/lawdk.html から入手可能です)。				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験	平成28年10月から平成30年9月まで、独占禁止法を執行する公正取引委員会に勤務していました。				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容	公正取引委員会企業結合課での実務経験を踏まえて、適宜お話しできればと思います。				

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
犯罪と法 (Crime and Law)					犯罪と法
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	金 5	利 光 宏 司 (非常勤講師) E-mail ask02@taketa10432.com 内線
授業の概要	日頃報道やドラマ等で見聞きする刑事法制度（刑法，刑事訴訟法，犯罪者処遇法）の世界を実務家の視点から解説する。基礎的な法解釈学や判例の学習を中心として刑事法制度の理解を深めるとともに，法的思考力及び表現力の基本を身につけることを目標とする。若者の新聞離れが叫ばれて久しい中，本講義では敢えてオールドメディアと揶揄される新聞記事を豊富に用い，刑事弁護人としての経験談等も取り入れつつ実務家の視点から事件報道に対する解説を行い，刑事法制度を理解する一助としたい。				
具体的な到達目標					
目標1	法体系の中で刑事法制度が置かれた位置を理解する。				
目標2	刑事法制度を貫く原則を理解する。				
目標3	捜査・公判など刑事司法の仕組み及び法曹（裁判官・検察官・弁護士）や警察官（司法警察職員）の役割について理解する。				
目標4	犯罪の成立要件など刑法の基礎を理解する。				
目標5	刑事法制度の理解を通じて論理的な思考力・表現力を身につける。				
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	憲法から見た刑事法制度 刑事法制度の大原則とは。				
3	刑事訴訟法の基礎 捜査（1）警察に逮捕されたらどうなるか。				
4	刑事訴訟法の基礎 捜査（2）警察に逮捕されたらどうなるか。				
5	刑事訴訟法の基礎 公判（1）裁判所に起訴されたらどうなるか。				
6	刑事訴訟法の基礎 公判（2）裁判所に起訴されたらどうなるか。				
7	刑法総論の基礎（1）犯罪が成立するには。				
8	刑法総論の基礎（2）犯罪が成立するには。				
9	刑法総論の基礎（3）犯罪が成立するには。				
10	刑法各論の基礎（1）どのような行為が犯罪になるのか。				
11	刑法各論の基礎（2）どのような行為が犯罪になるのか。				
12	犯罪被害者から見た刑事法制度 犯罪被害者はどのように扱われているか。				
13	裁判員制度				
14	犯罪者処遇法 刑事裁判のその後。				
15	講義のまとめ				
アクティブ ラーニング	対話形式の授業（受講生には積極的な発言を求める）				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	教科書の指定箇所（事前に伝達する）を読了すること。			
	事後学修	講義で触れた重要箇所を復習すること。			
教科書	井田 良（著）「基礎から学ぶ刑事法（第6版）」（有斐閣アルマ）				
参考書	「刑法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第8版）」，「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（いずれも有斐閣）				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	平常点				50
	期末テスト				50
注意事項	最新の小型六法（「ポケット六法」（有斐閣），「デイリー六法」（三省堂））を用いて学習することが望ましい。				
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験	弁護士				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容	実務家の視点から刑事法制度の原則と実際の運用を比較しつつ解説する。				

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
行政法 (Administrative Law)					行政法	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択	2	3, 4	前期	月 2	藤 井 修 一 E-mail fshuuichi@oita-ac.jp 内線 6752	
授業の概要	我々の日常生活は、行政の多様な活動に支えられています。こうした行政の組織や諸活動を規律している多数の法規の体系が行政法です。本講義では、行政法の基本理念や基礎的な知識を習得することを目的とします。					
具体的な到達目標						
目標1	行政法の基礎知識や基本的な概念を習得した上で、行政法上の論点や日常生活における行政法との関わりについて理解すること					
目標2						
目標3						
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	行政法の特徴 行政法の法源 法律による行政の原理 行政組織の基礎・国家と地方の行政組織 行政基準・行政計画 行政行為（1） 行政行為（2） 中間テスト 行政契約 行政指導 行政上の義務履行確保 行政手続と情報管理 行政手続法・行政不服審査法 行政救済 まとめ					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
アクティブ ラーニング	中間テストを実施し知識の定着を確認する。公務員試験等の過去問題に当たることで、知識の定着を確認する。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	教科書の該当部分について事前に目を通しておくこと。				
	事後学修	講義内容の定着に必要な学習を行うこと。				
教科書	原田大樹「グラフィック行政法」新世社を予定している（開講時に正式に指示する）。講義では、必要に応じてレジュメ等の資料を配布する。					
参考書	講義中に適宜指示する。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	欠席が多い者は評価の対象から外れる (欠格)。
	試験				80	
	レポート				10	
	授業態度				10	
注意事項	他人に迷惑となる行為（特に私語）を禁止する。					
備考	法律科目、特に憲法や民法の知識があると理解しやすい。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教 員 の 実 務 経 験	国税庁をはじめ財務省本省、他官庁等25年以上の実務経験を有する。					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容	税務関係の法令や国税組織の活動を説明することにより理解を深める。					

令和3年度(2021年度)講義概要(シラバス)

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
租税法 (Tax Law)					租税法
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	月 2	藤 井 修 一 E-mail fshuuichi@oita-ac.jp 内線 6752
授業の概要	租税の意義・役割及び所得税、法人税、消費税等の基本的な仕組み、徴収手続きなど租税法の基本的理念や考え方を中心に租税法の体系全体を俯瞰します。				
具体的な到達目標					
目標1	租税法の基本理念や考え方、各税目の基本的な仕組みを習得し、税の意義と役割、生活・経済との関わりについて理解すること。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	はじめに				
2	税に関する基本事項				
3	日本の租税法体系				
4	所得税（Ⅰ）				
5	所得税（Ⅱ）				
6	法人税				
7	税務行政組織（外部講師）				
8	相続税				
9	消費税				
10	国際課税				
11	税務調査				
12	租税の徴収（Ⅰ）				
13	租税の徴収（Ⅱ）				
14	税務争訟				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	外部講師の講演や税制上の問題についてレポートを求める。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の 目安	準備学修	教科書の該当部分について事前に目を通しておくこと。			
	事後学修	学習した内容の定着のため復習を行うこと。			
教科書	川田剛「十七訂版 租税法入門」一般財団法人大蔵財務協会 講義では、必要に応じてレジュメ等の資料を配布する。				
参考書	講義中に適宜指示する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	試験				70
	レポート				20
	授業態度				10
注意事項	他人に迷惑となる行為（特に私語）を禁止。				
備考	授業中に配付するプリントを使用しつつ、必要に応じて教科書を読み込む。法律科目を受講していると理解が深まる。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験	国税庁をはじめ財務省本省、他官庁等25年以上の実務経験を有する。				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○				
教員以外の指導に関わる実務経験者	国税局の実務家による説明を予定している。				
実 務 経 験 を いかした教育内容	税務関係の法令や国税組織の活動を説明することにより理解を深める。				